

有価証券報告書

(第58期) 自 平成22年4月1日
至 平成23年3月31日

夕力ノ株式会社

長野県上伊那郡宮田村137番地

目次

頁

表紙

第一部 企業情報	1
第1 企業の概況	1
1. 主要な経営指標等の推移	1
2. 沿革	3
3. 事業の内容	4
4. 関係会社の状況	6
5. 従業員の状況	7
第2 事業の状況	8
1. 業績等の概要	8
2. 生産、受注及び販売の状況	10
3. 対処すべき課題	12
4. 事業等のリスク	14
5. 経営上の重要な契約等	17
6. 研究開発活動	17
7. 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	18
第3 設備の状況	22
1. 設備投資等の概要	22
2. 主要な設備の状況	22
3. 設備の新設、除却等の計画	23
第4 提出会社の状況	24
1. 株式等の状況	24
(1) 株式の総数等	24
(2) 新株予約権等の状況	24
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	24
(4) ライツプランの内容	24
(5) 発行済株式総数、資本金等の推移	24
(6) 所有者別状況	24
(7) 大株主の状況	25
(8) 議決権の状況	26
(9) ストックオプション制度の内容	26
2. 自己株式の取得等の状況	27
3. 配当政策	28
4. 株価の推移	28
5. 役員の状況	29
6. コーポレート・ガバナンスの状況等	31
第5 経理の状況	36
1. 連結財務諸表等	37
(1) 連結財務諸表	37
(2) その他	76
2. 財務諸表等	77
(1) 財務諸表	77
(2) 主な資産及び負債の内容	99
(3) その他	102
第6 提出会社の株式事務の概要	103
第7 提出会社の参考情報	104
1. 提出会社の親会社等の情報	104
2. その他の参考情報	104
第二部 提出会社の保証会社等の情報	105

[監査報告書]

[内部統制報告書]

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成23年6月29日
【事業年度】	第58期（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）
【会社名】	タカノ株式会社
【英訳名】	TAKANO CO., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 鷹野 準
【本店の所在の場所】	長野県上伊那郡宮田村137番地
【電話番号】	(0265) 85-3150（代表）
【事務連絡者氏名】	常務取締役 大原 明夫
【最寄りの連絡場所】	長野県上伊那郡宮田村137番地
【電話番号】	(0265) 85-3150（代表）
【事務連絡者氏名】	常務取締役 大原 明夫
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第54期	第55期	第56期	第57期	第58期
決算年月	平成19年 3月	平成20年 3月	平成21年 3月	平成22年 3月	平成23年 3月
売上高 (千円)	26,771,662	22,216,465	21,581,754	13,999,083	17,203,591
経常利益又は経常損失 (△) (千円)	2,010,675	668,837	△269,950	△679,804	772,409
当期純利益又は当期純損失 (△) (千円)	998,732	401,329	△729,877	△820,683	907,444
包括利益 (千円)	—	—	—	—	855,778
純資産額 (千円)	27,741,410	27,635,699	26,233,608	25,359,972	26,139,746
総資産額 (千円)	36,573,167	35,314,489	31,875,555	30,600,466	34,540,764
1株当たり純資産額 (円)	1,764.75	1,758.02	1,726.31	1,668.82	1,720.13
1株当たり当期純利益又は1 株当たり当期純損失 (△) (円)	63.53	25.53	△46.79	△54.01	59.71
潜在株式調整後1株当たり当 期純利益 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	75.9	78.3	82.3	82.9	75.7
自己資本利益率 (%)	3.6	1.4	△2.7	△3.2	3.5
株価収益率 (倍)	22.2	43.2	—	—	9.4
営業活動によるキャッシュ・ フロー (千円)	△1,777,764	2,867,288	360,298	1,978,236	3,677,159
投資活動によるキャッシュ・ フロー (千円)	△397,432	△375,131	△243,152	△641,262	△979,241
財務活動によるキャッシュ・ フロー (千円)	△40,421	△250,395	△738,718	△218,961	△112,426
現金及び現金同等物の期末残 高 (千円)	4,349,751	6,570,406	5,918,357	7,040,749	9,607,165
従業員数 (外、平均臨時雇用者数) (人)	537 (91)	549 (96)	556 (94)	523 (91)	523 (89)

(注) 1. 売上高には消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益は、第56期及び第57期は1株当たり当期純損失であり、また、第54期から第58期の各連結会計年度においては潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第54期	第55期	第56期	第57期	第58期
決算年月	平成19年 3月	平成20年 3月	平成21年 3月	平成22年 3月	平成23年 3月
売上高 (千円)	25,275,781	20,793,706	20,227,640	13,077,661	16,102,199
経常利益又は経常損失 (△) (千円)	1,925,988	684,135	△218,744	△732,137	689,615
当期純利益又は当期純損失 (△) (千円)	866,683	385,103	△767,045	△851,749	831,323
資本金 (千円)	2,015,900	2,015,900	2,015,900	2,015,900	2,015,900
発行済株式総数 (千株)	15,721	15,721	15,721	15,721	15,721
純資産額 (千円)	26,945,538	26,828,309	25,416,394	24,508,451	25,217,049
総資産額 (千円)	34,953,638	33,988,805	30,710,565	29,466,580	33,325,650
1株当たり純資産額 (円)	1,714.12	1,706.66	1,672.53	1,612.78	1,659.42
1株当たり配当額 (うち1株当たり中間配当 額) (円)	20.00 (-)	20.00 (-)	5.00 (-)	5.00 (-)	8.00 (-)
1株当たり当期純利益又は1 株当たり当期純損失 (△) (円)	55.13	24.50	△49.17	△56.05	54.71
潜在株式調整後1株当たり当 期純利益 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	77.1	78.9	82.8	83.2	75.7
自己資本利益率 (%)	3.2	1.4	△2.9	△3.4	3.3
株価収益率 (倍)	25.6	45.1	-	-	10.2
配当性向 (%)	36.3	81.6	-	-	14.6
従業員数 (外、平均臨時雇用者数) (人)	451 (80)	462 (86)	476 (84)	462 (82)	455 (84)

(注) 1. 売上高には消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益は、第56期及び第57期は1株当たり当期純損失であり、また、第54期から第58期の各事業年度においては潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【沿革】

年月	事項
昭和16年7月	東京府向島区（現東京都墨田区）において個人で鷹野製作所を創業
昭和28年7月	各種ばねの製造・販売を目的として長野県上伊那郡宮田村に資本金30万円で株式会社タカノ製作所を設立
昭和29年8月	長野県上伊那郡宮田村に薄板ばね、線ばね製造の宮田工場を新設
昭和37年3月	ばねで培った技術をもとに、折畳ばね椅子を開発
昭和38年10月	横浜市緑区（現都筑区）に、自動車部品製造の横浜工場を新設
昭和41年12月	宮田工場内に椅子の製造ラインを設置
昭和43年3月	工具・機械等の仕入れを円滑にするため、関係会社として日光商事株式会社（現株式会社ニッコー）を設立
昭和43年11月	コクヨ株式会社と取引を開始
昭和44年10月	長野県伊那市に椅子製造の沢渡工場（現伊那工場）を新設
昭和48年8月	社名をタカノ株式会社に変更
昭和54年9月	専用機、金型の設計、製作、販売を行うため、関連会社としてタカノ機械株式会社を設立
昭和57年3月	伊那工場内でエクステリア製品の製造を開始
昭和58年12月	長野県上伊那郡宮田村にエレクトロニクス関連製品製造の特品工場を設置
昭和60年8月	長野県伊那市に、高級事務用回転椅子製造の下島工場を新設
昭和60年8月	産業機器（電磁アクチュエータ）を開発、製造・販売
昭和60年9月	東京都千代田区に東京事務所（現東京営業所）を設置
昭和62年6月	画像処理装置第1号機を完成
平成元年3月	長野県上伊那郡宮田村にエクステリア製品製造の南平工場（現検査計測装置製造）を新設
平成4年4月	エレクトロニクス関連製品の製造・販売一元化のため、タカノ販売株式会社（昭和60年9月設立）を吸収合併
平成6年2月	北海道函館市に検査計測装置開発を行う函館事業所を開設
平成6年5月	東京大学に原子間力顕微鏡を納入
平成7年7月	日本証券業協会に当社株式を店頭売買銘柄として登録
平成8年12月	I S O 9001 認証取得（電磁アクチュエータ）
平成9年2月	東京証券取引所市場第二部に当社株式を上場
平成9年11月	I S O 9001 認証取得（オフィス家具）
平成11年1月	長野県駒ヶ根市にエクステリア製品の製造兼物流拠点として馬住工場（兼倉庫）を新設
平成11年3月	I S O 14001 認証取得（オフィス家具）
平成11年3月	I S O 9001 認証取得（エクステリア）
平成11年8月	I S O 9002（現在は I S O 9001）認証取得（宮田工場）
平成11年9月	I S O 9001 認証取得（画像処理検査装置）
平成13年9月	I S O 14001 認証取得（本社、健康福祉・ユニット部門、エクステリア、エレクトロニクス関連）
平成16年3月	当社株式が東京証券取引所市場第一部に指定
平成17年2月	台湾における検査計測装置のメンテナンスおよびサービス強化の目的で、台湾鷹野股份有限公司を設立
平成18年5月	韓国における検査計測装置の販売等強化の目的で、Takano Korea Co., Ltd. を設立
平成22年1月	中国におけるオフィス用椅子等の販売強化の目的で、上海鷹野商貿有限公司を設立

3 【事業の内容】

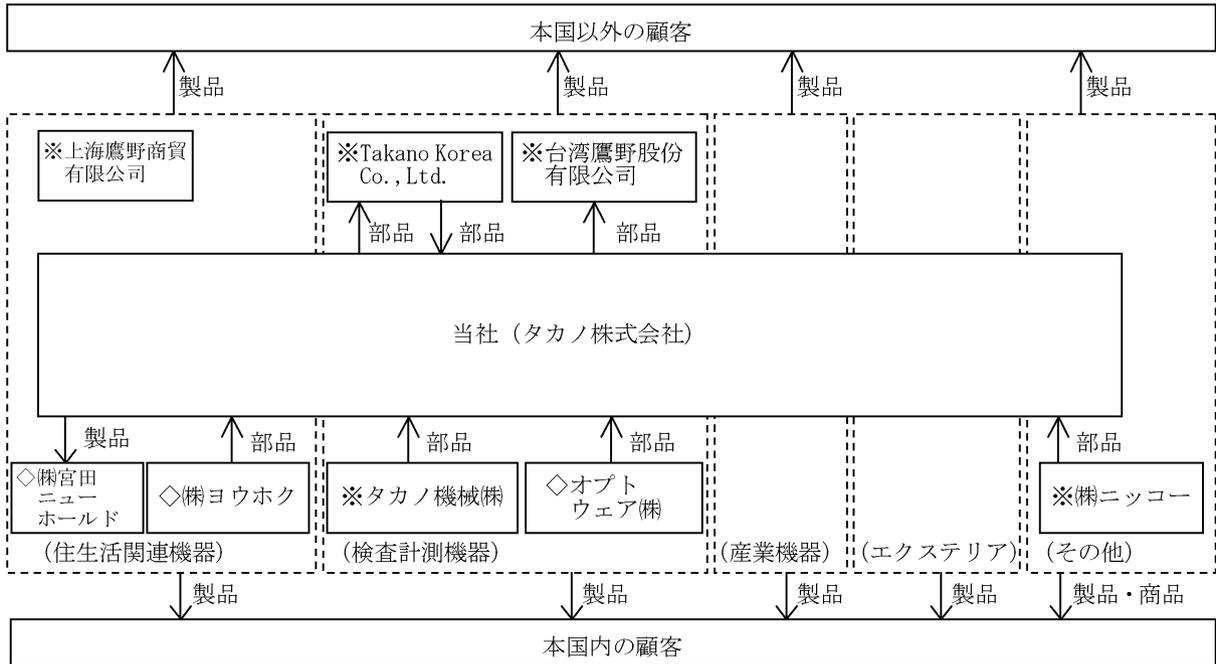
当企業集団は、当社および子会社5社、関連会社3社により構成されており、オフィス用、福祉・医療施設用の椅子等の製造・販売に係る「住生活関連機器」、液晶等の検査計測装置等の製造・販売に係る「検査計測機器」、電磁アクチュエータ等の製造・販売に係る「産業機器」、エクステリア製品の製造・販売に係る「エクステリア」、「その他（ユニット（ばね）製品の製造・販売、機械・工具等の販売）」を主たる業務としております。

事業内容と当社および関係会社等の当該事業に係わる位置づけならびにセグメントとの関連は次の通りであります。

- (1) 住生活関連機器……………主要な製品は事務用回転椅子、折畳椅子、会議用椅子等のオフィス用の椅子、車椅子等の福祉・医療施設用の椅子等であります。
オフィス用椅子……………持分法非適用関連会社である株式会社ヨウホクから材料部品の一部を購入し、当社がオフィス用の椅子を製造し、顧客に販売するほか、子会社上海鷹野商貿有限公司が主としてオフィス用の椅子を仕入れ、国内および中国の顧客に販売しております。
福祉・医療施設用椅子……当社が製造・販売するほか、一部の製品は持分法非適用関連会社である株式会社宮田ニューホールドを通じて得意先に販売しております。
- (2) 検査計測機器……………主要な製品は液晶等のフラット・パネル・ディスプレイ検査装置、半導体パッケージ検査装置、フィルム検査装置、太陽電池検査装置、原子間力顕微鏡等の検査計測装置等であります。
一部のユニットを子会社であるタカノ機械株式会社および持分法非適用関連会社であるオプトウェア株式会社より購入し、当社が製造・販売しております。また、台湾における顧客のメンテナンスおよびサービスは子会社台湾鷹野股份有限公司が、韓国における顧客向け製品の一部の販売は子会社Takano Korea Co., Ltd. が行っております。
- (3) 産業機器……………主要な製品は産業用機械に用いられる電磁アクチュエータおよびそのユニット品等であります。
産業機器は当社が製造・販売しております。
- (4) エクステリア……………主要な製品は跳ね上げ式門扉、カーポート、テラス、オーニング等のエクステリア製品であります。
エクステリア製品は当社が製造・販売しております。
- (5) その他……………当社が行っているユニット（ばね）製品の製造・販売および子会社株式会社ニッコーが行う機械・工具等の販売に係る事業を含んでおります。

[事業の系統図]

以上述べた事項を事業系統図によって示すと次の通りであります。



(注) ※印は連結子会社、◇印は関連会社(持分法非適用)を示します。

4【関係会社の状況】

連結子会社

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業内容	議決権の所有割合 (%)	関係内容
株式会社ニッコー	長野県上伊那郡宮田村	90	その他	100	当社への商品の販売 役員の兼任あり。
タカノ機械株式会社	長野県上伊那郡宮田村	50	検査計測機器	100	当社への検査計測装置ユニット等機械設備の販売 役員の兼任あり。
台湾鷹野股份有限公司	中華民国台北縣	69	検査計測機器	100	検査計測装置のメンテナンスおよびサービス 役員の兼任あり。
Takano Korea Co., Ltd.	大韓民国京畿道安養市	125	検査計測機器	100	検査計測装置の販売 役員の兼任あり。
上海鷹野商貿有限公司	中華人民共和国上海市	22	住生活関連機器	100	オフィス用椅子等の仕入・販売 役員の兼任あり。

(注) 1. いずれも売上高（連結会社相互間の内部売上高を除く）の連結売上高に占める割合がそれぞれ100分の10以下であるため主要な損益情報の記載を省略しております。

2. 「主要な事業の内容」欄にはセグメントの名称を記載しております。

5【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成23年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数（人）
住生活関連機器	200 (39)
検査計測機器	200 (11)
産業機器	29 (13)
エクステリア	24 (8)
報告セグメント計	453 (71)
その他	25 (18)
全社（共通）	45 (0)
合計	523 (89)

- (注) 1. 従業員数は就業人員（当社グループ（当社及び連結子会社、以下同じ）からグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含んでおります。）であり、臨時雇用者数（契約社員、季節社員を含み人材会社からの派遣社員は除いております。）は（ ）内に年間の平均人員数を外数で記載しております。
2. 全社（共通）と記載されている従業員数は、特定のセグメントには区分できない管理部門に所属しているものであります。

(2) 提出会社の状況

平成23年3月31日現在

従業員数（人）	平均年齢（歳）	平均勤続年数（年）	平均年間給与（円）
455 (84)	39.8	16.10	5,216,367

セグメントの名称	従業員数（人）
住生活関連機器	194 (39)
検査計測機器	146 (11)
産業機器	29 (13)
エクステリア	24 (8)
報告セグメント計	393 (71)
その他	17 (13)
全社（共通）	45 (0)
合計	455 (84)

- (注) 1. 従業員数は就業人員（当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者を含んでおります。）であり、臨時雇用者数（契約社員、季節社員を含み人材会社からの派遣社員は除いております。）は（ ）内に年間の平均人員数を外数で記載しております。
2. 平均年間給与は、賞与および基準外賃金を含んでおります。
3. 全社（共通）と記載されている従業員数は、特定のセグメントには区分できない管理部門に所属しているものであります。

(3) 労働組合の状況

当社および国内連結子会社一部の労働組合は、JAMタカノ支部と称し、当社本社に同組合支部が置かれ、平成23年3月31日現在における組合員数は368人で上部団体のJAMに加盟しております。

なお、労使関係は安定しております。

第2【事業の状況】

1【業績等の概要】

(1) 業績

当連結会計年度におけるわが国経済は、中国をはじめとするアジア圏の経済回復にともなう輸出、生産の持ち直しにより、企業業績も改善し、景気全般としては回復基調に推移いたしました。円高の進行、厳しい雇用情勢等、先行きの懸念もあり、本格的な回復には至りませんでした。

加えて、当年度末に発生した東日本大震災の国内経済に対する影響ははかり知れず、景気の先行きをより不透明にすることとなりました。

このような環境のもと、当社グループは「危機を克服し、新たな成長を拓く」をスローガンとし、中期経営計画に掲げる「既存事業分野での確実な利益確保を行える体制づくり」、「新規事業領域での事業育成強化」、「グローバル化への対応」を進めるべく、内外製区分の見直しや製品設計等の標準化を通じたコストダウン活動、新エネルギー関連分野向けの積極的な営業活動、新規事業開発部門の組織体制の強化および中国向け需要を取り込むための営業体制の拡充などに取り組んでまいりました。

その結果、住生活関連機器事業におけるオフィス用椅子、検査計測機器事業における検査計測装置、産業機器事業における電磁アクチュエータの販売の増加等により、当連結会計年度の売上高は17,203百万円で、前連結会計年度比3,204百万円、22.9%の増収となりました。

利益面につきましては、原価管理の徹底を行うとともに、業務プロセスの見直しや経費削減による固定費の削減等の積極的な合理化を進めたこと等により営業利益712百万円（前連結会計年度は営業損失816百万円）、経常利益772百万円（前連結会計年度は経常損失679百万円）、当期純利益907百万円（前連結会計年度は当期純損失820百万円）となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

セグメント別の概況につきましては、前連結会計年度まで「OEM事業」、「エレクトロニクス関連事業」、「その他の事業」の3区分としておりましたが、当連結会計年度より「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年3月27日）および「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日）を適用したこととともない、「住生活関連機器」、「検査計測機器」、「産業機器」、「エクステリア」、「その他」の5区分に変更しております。

なお、前連結会計年度のセグメント別の概況につきましては、変更後の区分に組替を行い、表示しております。（住生活関連機器）

当セグメントは、当社、連結子会社上海鷹野商貿有限公司で構成され、主にオフィス用、福祉・医療施設用の椅子等の製造販売を行っております。

当セグメントにおいては、国内および中国オフィス家具市場向け新製品開発を積極化するとともに、内外製区分の見直し、部品共通化等を含めた設計の見直し、海外調達強化等のコストダウンを積極的に進めました。また、医療・福祉向け製品の製品開発体制・販売体制の強化を図りました。

この結果、オフィス家具需要の回復にあわせ販売は拡大し、売上高は7,098百万円で前連結会計年度比1,008百万円、16.6%の増収となりましたが、販売価格の低下、資材価格の高騰等の影響を受け、セグメント損失は21百万円（前連結会計年度は87百万円のセグメント利益）となりました。

（検査計測機器）

当セグメントは、当社、連結子会社タカノ機械株式会社、台湾鷹野股份有限公司およびTakano Korea Co., Ltd.で構成され、主に液晶等の検査計測装置等を製造販売しております。

当セグメントにおいては、中国向け液晶検査装置の受注活動に注力するとともに、太陽電池製造プロセス向け等、液晶以外の分野における検査装置の積極的な営業・開発活動を行ってまいりました。また、前年度に引き続き、業務プロセスの改革運動等、合理化に向けた積極的な活動を行ってまいりました。

この結果、FPD（フラット・パネル・ディスプレイ）製造装置需要の回復にあわせ、売上高は6,114百万円で前連結会計年度比1,465百万円、31.5%の増収となりました。利益面では、業務プロセスの改革運動の効果等が顕在化したこともあり、セグメント利益481百万円（前連結会計年度は987百万円のセグメント損失）と黒字に転ずることができました。

（産業機器）

当セグメントは、当社が主に電磁アクチュエータ等を製造販売しております。

当セグメントにおいては、設備投資等の回復により金融機器・織機・半導体関連機器向けの電磁アクチュエータの需要は好調に推移するなか、需要回復にあわせた生産体制の構築に努めたほか、品質保証体制の見直し、医療関連市場および中国をはじめとするアジア地域への積極的な営業活動に取り組んでまいりました。

この結果、売上高は1,525百万円で前連結会計年度比537百万円、54.4%の大幅な増収となり、セグメント利益は300百万円で前連結会計年度比166百万円、123.9%の増益となりました。

(エクステリア)

当セグメントは、当社が主に跳ね上げ式門扉、カーポート、テラス、オーニング等のエクステリア製品を製造販売しております。

当セグメントにおいては、夏場の気温が非常に高い状況であったことを受け、オーニングの需要が増加傾向で推移するなか、販売体制の拡充に努めたほか、オーニング関連製品等の積極的な新製品開発・新商材開発に取り組んでまいりました。

この結果、高速道路パーキングエリア・サービスエリア向けオーニングの受注増等により、売上高は737百万円で前連結会計年度比107百万円、17.0%の増収となりましたが、販売価格の低下傾向、販売体制の拡充に関するコスト増等の要因により、セグメント損失は107百万円（前連結会計年度はセグメント損失80百万円）となりました。

(その他)

当セグメントは、当社、連結子会社株式会社ニッコーで構成されており、ユニット（ばね）製品の製造販売、機械・工具の販売に関する事業を含んでおります。

当セグメント全般として、企業の設備投資の回復を受け、販売は堅調に推移し、利益面も改善を図ることができました。

この結果、売上高は1,727百万円で前連結会計年度比84百万円、5.2%の増収となり、セグメント利益は69百万円で前連結会計年度比57百万円、477.2%の増益となりました。

(2) キャッシュ・フロー

当連結会計年度における連結ベースの現金および現金同等物（以下「資金」という）は、営業活動の結果得られた資金が増加したこと等により、前連結会計年度末に比べ2,566百万円増加し、9,607百万円（前連結会計年度36.5%増）となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、前連結会計年度と比較して1,698百万円増加の3,677百万円となりました。これは主に検査計測装置にかかる収益の計上基準の変更にもなう仕掛品の増加によるたな卸資産の増加額1,890百万円の支出の一方、税金等調整前当期純利益743百万円、売上債権の減少額1,436百万円、前受金の増加額1,778百万円（棚卸資産の増加額と同様、検査計測装置にかかる収益の計上基準の変更にもなう増加）等の収入により、前連結会計年度と比較して収入増となったものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動に使用した資金は、前連結会計年度と比較して337百万円増加し、979百万円となりました。これは主に投資有価証券の取得による支出が前連結会計年度比252百万円減少し、投資有価証券の売却及び償還による収入が前連結会計年度と比較して379百万円増加する一方、定期預金の預入と払戻に係る収支が前連結会計年度の154百万円の収入から当連結会計年度においては520百万円の支出となったこと、有形固定資産の取得による支出が前連結会計年度比141百万円増加したこと等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により支出した資金は、前連結会計年度と比較して106百万円減少し、112百万円となりました。これは主にリース債務の返済に関する支出が前連結会計年度比4百万円増加する一方、長期借入金に関する収支が111百万円の収入増となったこと等によるものであります。

2【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当連結会計年度の生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	前年同期比 (%)
住生活関連機器 (千円)	6,988,486	16.8
検査計測機器 (千円)	8,896,103	98.2
産業機器 (千円)	1,660,692	72.6
エクステリア (千円)	730,656	17.7
報告セグメント計 (千円)	18,275,938	51.6
その他 (千円)	847,481	△4.9
合計 (千円)	19,123,420	47.7

(注) 1. 金額は販売価格によっており、セグメント間取引は相殺消去しております。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 受注状況

当連結会計年度の受注状況をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高 (千円)	前年同期比 (%)	受注残高 (千円)	前年同期比 (%)
住生活関連機器 (千円)	6,862,540	8.8	396,108	△37.3
検査計測機器 (千円)	6,424,786	△0.7	6,306,898	5.2
産業機器 (千円)	1,546,177	41.4	159,913	15.0
エクステリア (千円)	752,338	17.5	66,000	29.4
報告セグメント計 (千円)	15,585,841	7.4	6,928,919	1.6
その他 (千円)	1,709,012	3.6	54,557	△25.7
合計 (千円)	17,294,854	7.0	6,983,476	1.3

(注) セグメント間取引は相殺消去しており、消費税等は含まれておりません。

(3) 販売実績

当連結会計年度の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	前年同期比 (%)
住生活関連機器 (千円)	7,098,599	16.6
検査計測機器 (千円)	6,114,445	31.5
産業機器 (千円)	1,525,312	54.4
エクステリア (千円)	737,338	17.0
報告セグメント計 (千円)	15,475,694	25.2
その他 (千円)	1,727,896	5.2
合計 (千円)	17,203,591	22.9

(注) 1. セグメント間取引は相殺消去しております。

2. 最近2連結会計年度の主な相手先の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は、次のとおりであります。

相手先	前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	
	金額 (千円)	割合 (%)	金額 (千円)	割合 (%)
コクヨファニチャー株式会社	5,367,700	38.3	6,063,478	35.2
L Gジャパン株式会社	—	—	1,968,000	11.4

3. 本表の金額には、消費税等は含まれておりません。

4. 前連結会計年度のL Gジャパン株式会社については、当該割合が100分の10未満のため記載を省略しております。

3【対処すべき課題】

(1) 当社グループとしての現状の認識について

今後の見通しにつきましては、厳しい雇用情勢は続くとともに、為替の急激な変動、資源の高騰等の影響に加え、東日本大震災にともなう一連の事故等による経済への大きな影響は避けられず、非常に厳しい経営環境となることが予想されます。

当社グループの主力製品が関係するオフィス家具業界におきましても、首都圏におけるオフィスビル建設は回復基調に推移するものの、企業の設備投資意欲の減退が予測され、また、素材価格の高騰も懸念されるなど、取り巻く環境は、なお、厳しい状況で推移するものと思われまます。

また、当社グループのもう一つの主力製品である検査計測装置が関係する液晶をはじめとするFPD（フラット・パネル・ディスプレイ）製造装置業界におきましても、FPD製造装置需要は微減から横ばいに推移すると思われまますが、装置販売価格の低下傾向は引き続きものと思われ、事業環境は厳しさが予測されます。

以上のような事業環境の中、当連結会計年度においては、住生活関連機器事業におけるオフィス用椅子、検査計測機器事業における検査計測装置、産業機器事業における電磁アクチュエータの販売が拡大する中、原価管理の徹底を行うとともに、業務プロセスの見直しや経費削減による固定費の削減等の積極的な合理化を進めたことにより、黒字転換を図ることができましたが、翌連結会計年度は東日本大震災の影響による個人消費、企業の設備投資等の低迷が予測され、引き続き当社を取り巻く環境は厳しい状況であります。

このような現状認識において、当社グループは「危機を克服し、新たな成長路線を築く」をスローガンとし、収益基盤の再構築を掲げた中期経営計画の着実な実行により、事業基盤の早期回復と新たな成長分野の育成を図り、企業価値の向上を目指してまいります。

(2) 当面の対処すべき課題の内容

当社グループの主力製品であるオフィス用椅子が含まれる住生活関連機器事業においては、上記の現状認識のもと、一定の予想される受注高で利益を確保できるよう製品構成・製品製造体制等の事業構造を変革し、損益分岐点比率の引き下げを通じて継続的に利益が上げられる体質への転換を果たしていくこと、製品設計・機能・コスト等の抜本的な見直しを通じて、需要を喚起し、販売の拡大に繋がりうる新製品の開発を継続して行うことを重要な課題として認識しております。また、当社グループの各事業を跨いだ営業情報を活用し、既存事業ノウハウを活かせる新製品・新分野の事業化、販売拡大を行うことも重要な課題として認識しております。

当社グループのもう一つの主力製品である検査計測装置が含まれる検査計測機器事業においては、上記の現状認識のもと、業務プロセス全般にわたるプロセス改革活動を進め、内製化の推進と固定費の圧縮を通じた利益体質の構築とFPD向け以外の検査装置分野に資源を集中投入し早期の販売拡大を通じてバランスのとれた事業構造を構築することを重要な課題と認識しております。

また、新規事業の事業化スピードの向上を図り、早期に新規事業を立ち上げることおよび中国への市場展開等グローバル化への対応を進めることを重要な課題として認識しております。

さらに、このたびの東日本大震災における経営への影響等を教訓とし、自然災害に対するリスク管理体制の見直しを行うとともに、事業の継続性の観点から自然災害を含めた事業リスクへの管理体制を強化することを重要な課題として認識しております。

(3) 対処方法ならびに取組状況

以上の対処すべき課題の内容認識のもと、当社グループを取り巻く環境変化への対応を図るべく、中期経営計画を策定し、次のような取り組みを行い、早期の業績回復および事業基盤の強化を行ってまいります。

当社グループ全般にわたり、業務の効率化を図るため、「JIT（ジャスト・イン・タイム）思想の認識を高め、その実行を徹底的に行う」を方針とし、業務の見える化や徹底したムダの削減により、コストの削減を図るべく、全社的な運動として取組みを進めております。

当社グループの主力製品であるオフィス用椅子が含まれる住生活関連機器事業においては、現在2つある製造工場の集中化を実施しており、同集中化により事業経営機能の重複等の排除、生産性の向上、人員体制の見直しを含む固定費の圧縮等を図っており、引き続き生産体制合理化の検討を行っております。また、新たなデザイン開発を進めるとともに、設計の見直しを進めることにより部品等の共通化・標準化を図り、コスト競争力と魅力ある製品の開発に取り組んでおります。さらに、事業を跨いだ営業情報に基づく、既存事業ノウハウを活かせる新製品・新分野の事業化、販売拡大を行うべく、情報の共有化とプロジェクトによる事業間連携体制の検討を行っており、一部実施を始めております。

当社グループのもう一つの主力製品である検査計測装置が含まれる検査計測機器事業においては、利益体質の構築へ向けプロジェクトにより業務プロセス全般にわたるプロセス改革活動を進めており、一定の成果をあげることができております。また、FPD向け以外の検査計測装置分野での早期の販売拡大を図るべく、太陽電池パネル等の新エネルギー分野における検査計測装置の開発および営業体制の拡充を図っており、今後も引き続き同分野に注

力してまいります。

なお、中国への市場展開等グローバル化への対応につきましては、今後の市場拡大が期待される中国市場における需要を取り込むべく、前連結会計年度に設立した中国現地法人上海鷹野商貿有限公司での販売体制の拡充等に取り組んでおり、中国市場向けの販売活動を引き続き強化してまいります。

加えて、自然災害を含めた事業リスクへの管理体制の強化については、当面、今後発生が想定される大規模な地震災害へ備えるべく、組織的な地震対策の検討および地震対策の実施を行っていく予定であります。

4【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、当社グループの経営成績、財務状況等に影響を及ぼす可能性のあるリスクには以下のようなものがあり、投資家の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項として考えております。

なお、文中の将来に関する事項は、有価証券報告書提出日（平成23年6月29日）現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 当社グループがとっている経営方針

① 参入事業分野が多岐にわたっていることに係るリスク

当社グループでは、「事業にはライフサイクルがある。」との考えから単一事業を行うことによるリスクを回避するため、継続的に新規事業開発に取り組んでまいりました。そのため、オフィス用椅子、福祉・医療用椅子、検査計測装置、産業機器、エクステリア製品など事業分野が多岐にわたっております。このような方針をとり、参入分野が多岐にわたっているため、経営資源の集中化を行うことによる事業成長が阻害される可能性があり、それが当社グループの経営成績、財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。また、新規事業開発はそれが必ず一定の事業化まで結びつくという保証はなく、新規事業開発に経営資源を傾注させ、それが実を結ばなかった場合には、当社グループの経営成績、財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

② 検査計測機器事業の特許戦略について

検査計測機器事業においては、知的財産権の出願により技術が公開され、第三者への技術流出を防ぐという観点から、知的財産権の出願を積極的には実施しておりません。そのため、他社が当該事項に関する特許を出願した場合には、特許が成立する可能性があります。

また、当社グループでは製品開発の際に入念な知的財産権の調査を行うよう努めておりますが、第三者の知的財産権を侵害しない保証はなく、第三者から知的財産権侵害を理由とした販売差し止めや損害賠償請求等の訴えが提起される可能性があります。

(2) 財政状態、経営成績の異常な変動

投資有価証券の評価損に係るリスク

当社では、投資目的による有価証券の保有および事業の展開上必要と思われる企業への出資を行っており、今後も行う可能性があります。そのような有価証券への投資においては、株価の著しい下落および投資先企業の業績が著しく低迷した場合、投資有価証券評価損が発生し、当社グループの経営成績、財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

(3) キャッシュ・フローの状況の異常な変動

検査計測機器事業の資金回収期間に係るリスク

検査計測機器事業における検査計測装置の納入から検収までの期間は、業界の慣行から、当社グループの他の事業と比較して長期にわたるため、販売が急拡大した場合、同事業における棚卸資産は増加する傾向があり、それにとまない運転資金も拡大し、営業キャッシュ・フローに異常な変動を与える要因となる可能性があります。

(4) 研究開発活動及び人材育成等について

① 研究開発活動に係るリスク

検査計測機器事業の属する業界は先端技術分野に属するため、技術の優劣が事業活動を左右することとなります。そのため、当社グループは研究開発活動を通じて常に先端技術の取り込みを行っておりますが、当該研究開発活動が予想された結果を出し、業績に結びつくという保証はありません。また、当社グループが技術革新に乗り遅れた場合においては、経営成績に重大な悪影響を及ぼす可能性があります。

② 人材の確保と育成に係るリスク

当社グループの事業は特定の経営者、有能な技術者に依存している部分があります。また、今後事業の成長を果たしていくためには、有能な技術者、経験豊富な営業・管理スタッフの確保・育成が重要な課題となっております。そのような人材を確保・育成できない場合または優れた人材が大量に離職した場合には、当社グループの事業活動が制約を受け、将来の成長、経営成績、財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

(5) 特定事業への依存について

① 住生活関連機器事業における主要顧客企業への依存に係るリスク

当社グループの住生活関連機器事業は、平成23年3月期において当社グループの売上高の41.3%を占めており、特にオフィス用椅子を販売しているコクヨファニチャー株式会社への平成23年3月期における当社グループ販売高比率は35.2%となっております。これらの分野における顧客企業への売上高は、顧客企業個別の要因等の当社グループが管理できない要因により大きな影響を受けます。顧客企業の予期しない契約の打ち切り、顧客の調達方針の変化、値下げ要求等は、当社グループの経営成績と財政状態に重大な悪影響を及ぼす可能性があります。

② 検査計測機器事業における特定業界への依存に係るリスク

当社グループの検査計測機器事業は、平成23年3月期において当社グループの売上高の35.5%を占めております。検査計測機器事業の主力製品である検査計測装置の主要な需要先は日本・台湾・韓国における液晶カラーフィルターメーカー・液晶パネルメーカーであり、同装置事業の経営成績は液晶製造業界の設備投資動向に大きな影響を受けます。これらの業界の設備投資は市況の影響を受け、大きな需要変動が生じる可能性があります。

当社グループにおいては、日頃から顧客や外部機関等からの情報を分析することにより急激な需要変動を予測し、適切な経営判断を行えるよう努力をするとともに、急激な需要減少に備え、固定的費用に依存しない形での生産能力の向上に努めてはおりますが、当社グループの予想を超えて設備投資動向が急減した場合には、当社グループの経営成績と財政状態に重大な悪影響を及ぼす可能性があります。

(6) その他

① 固定資産の減損会計について

当社グループにて保有している固定資産について、業績の状況および将来の見込みによっては、固定資産の減損により経営成績及び財政状態に影響を与える可能性があります。

② 競合について

当社グループの各事業では、安易な価格競争に陥ることの無いよう、製品開発、技術開発で競合他社に一步先んじることにより、差別化を図り、競争力を堅持するとの方針に基づいて事業展開を行っておりますが、競合他社により当社の技術、当社の製品の機能を上回る画期的新製品が開発・製造され、当社製品の競争力が低下する可能性は否定できません。また、市場環境・需要動向によっては競合他社との激しい価格競争を余儀なくされる可能性もあり得ます。このような場合、当社製品の競争力低下、価格の下落等により、経営成績及び財政状態に悪影響を与える可能性があります。

③ 製品の欠陥に係るリスク

当社グループにおいては、製品品質の向上を経営の最重点課題のひとつとして認識し、全社的な品質保証活動、品質管理活動に努めており、ほぼ全社の事業部門において世界的に求められている品質管理基準に従い各種製品を製造しております。しかし、全ての製品について欠陥がなく、将来品質保証に係る損失が発生しないという保証はありません。また、製造物責任賠償については保険に加入しておりますが、この保険が最終的に負担する賠償額を十分にまかなえるという保証もありません。大規模な品質保証上の問題や製造物責任賠償につながるような製品の欠陥は、多額のコストや当社グループの評価に重大な影響を与え、それにより売上高が低下し、当社グループの経営成績と財政状態に悪影響がおよぶ可能性があります。

④ 検査計測機器事業における為替・カントリーリスク

検査計測機器事業は、FPD（フラット・パネル・ディスプレイ）メーカー各社を顧客としておりますが、アジア圏における設備投資は今後も拡大する見込みであり、そのため、検査計測装置のアジア圏向け販売も拡大することが予測されます。

現在、同装置の主要な取引条件は円建て取引となっておりますが、今後も円建て取引が継続される保証はなく、外貨建て取引となった場合においては為替の影響を受け、経営成績に悪影響を及ぼす可能性があります。また、これらの国等において予期せぬ法規制の変更、不利な政治的要因、テロ、戦争、その他の要因による社会的混乱が生じた場合、経営成績、財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

⑤ 地震等の天災地変に係るリスク

当社グループの主要事業所は長野県南部を中心として設置されております。

長野県南部は東海地震の想定対象範囲に属しており、震災等が発生した場合震度6弱の地震が想定されております。当社グループは、将来予測される大地震の発生に備え、当社資産が損傷、損失しないよう対策を順次講じておりますが、その対応には限界があり、大地震発生後には一時的に生産活動が停止する可能性があるとともに、当社生産設備等に重大な影響を及ぼす可能性があります。

⑥ 公的規制に関するリスク

当社グループは、事業活動を行ううえで日本国内のみならず事業活動を行う各国において、国や公的機関からの事業・投資の許認可、独占禁止、通商、租税、労働、特許等の知的財産権、環境規制等のさまざまな公的規制を受けております。当社グループにおいては、これらの公的規制の遵守に努めているものの、公的規制は変化することが予想され、将来これらの公的規制を当社グループが遵守できない場合、当社グループの営む各事業の継続に影響を及ぼすような公的規制がかけられた場合には、当社グループの財政状態および経営成績に悪影響を与える可能性があります。

⑦ 外部製造委託先に関するリスク

当社グループにおいては、製品製造の一部を外部製造委託先に委託しております。重要工程での製造は社内において行うことを原則としており、また、2社以上の委託先に注文を行うよう努めてはおりますが、一部には重要な工程の外部委託、特定1社の委託先への継続注文も存在しております。

そのため、特定の外部委託先が事業継続困難となった場合には、製品の生産および販売に支障をきたす可能性があります。このような場合、製品の供給遅延等にもなる損害賠償、信用の低下等により、当社グループの経営成績に悪影響が生ずる可能性があります。

⑧ M&A、業務提携に関するリスク

当社グループは、今後求められる経営能力の早期獲得を目的に、業務提携、M&Aに関して積極的な姿勢を持っております。

業務提携、M&Aに関しては十分精査し、実施してまいりますが、その業務提携、M&Aにより期待された成果が出るという保証はなく、提携等の交渉が不調に終わった場合には当社の将来にわたる経営成績に影響を及ぼす可能性があります。また、現在提携関係にあるものとの不一致等により提携関係を維持できなくなった場合、経営成績等に影響を及ぼす可能性があります。

⑨ 情報通信システムとセキュリティに関するリスク

コンピュータネットワークや情報システムの果たす役割は年を追うごとその重要性は高まり、情報システムの構築およびセキュリティ対策の確立は事業活動の継続にあって、不可欠のものとなっております。

当社グループにおいても、情報システムの保守、重要データの管理およびセキュリティ管理などの対策に万全を期しておりますが、情報通信ネットワークの断絶、基幹情報システムの停止、社内情報の漏洩・流出等が生じない保証はありません。このような場合、情報システムの利用不能にもなる損害、信用力低下、契約上の損害賠償請求等の損害が発生し、当社の経営成績に影響を与える可能性があります。

⑩ 重要な訴訟等に関するリスク

当社グループの国内外の活動においては、係争事件等により訴訟が提起される可能性を持っております。本資料提出日現在、経営成績および財政状態に重大な影響を及ぼす係争事件等はございませんが、今後そのような係争事件等が発生する可能性は皆無ではありません。

⑪ 役職員の不正行為に関するリスク

当社グループはコンプライアンスに関して内部統制の整備を行い、リスク対応力をつけるべく、より充実した内部管理体制を目指して努力してまいりますが、その内部統制は合理的範囲にとどまり、役職員による重大な過失、役職員の共謀等による不正、違法行為がなされないという保証はありません。かかる当社のリスク認識を超えた事象が発生した場合、予期せぬ損害が発生するとともに、当社の信用の失墜を招き、当社グループの経営成績および財政状態に悪影響が生ずる可能性があります。

5 【経営上の重要な契約等】

特記すべき事項はありません。

6 【研究開発活動】

当社グループの研究開発活動は「お客様に習う」をモットーとし、開発時からの総合的なコストダウンならびに環境への配慮を主眼に開発活動を進めております。

当連結会計年度における各セグメント別の主要テーマ、研究成果および研究開発費は次の通りであります。なお、研究開発費については、各セグメントに配分できない基礎研究費用6百万円が含まれており、当連結会計年度の研究開発費の総額は328百万円となっております。

(1) 住生活関連機器事業

当連結会計年度における住生活関連機器事業の研究開発費用は117百万円となっており、内容につきましては下記のとおりであります。

① オフィス用椅子

オフィス用椅子の研究開発は、当社家具開発部が担当しており、「オフィスの生産性向上」を基本コンセプトに、新しい機能の考案、新素材の採用、加工技術の開発に取り組むとともに、製品の環境影響に留意した開発を行っております。当連結会計年度における主要テーマは、中国市場向け新型事務用回転椅子開発、エコ対応素材等にかかわる研究開発等であり、それぞれ概ね開発は終了しております。

② 福祉・医療施設用椅子

福祉・医療施設用椅子の研究開発は、主に当社健康福祉部が担当しており、移乗・移動・シーティングを助け、高齢者・障害者の自立した生活を可能とする製品の研究・開発を行っております。当連結会計年度における主要テーマは、診療空間向けの車椅子、介護施設向け体重計付車椅子等の開発であり、それぞれ概ね開発は終了しております。

(2) 検査計測機器事業

検査計測機器事業の研究開発は、当社画像計測グループ開発部が担当しております。当部門では開発リスクや開発効率を考慮し、優秀な先端技術を有する大学等を積極的に活用することにより、委託研究や共同開発を進め、その成果を取り込んでおります。当連結会計年度における主要テーマは、競争力向上を目的とした超高速リニアセンサーカメラ開発・新型画像処理装置開発、太陽電池向け検査装置開発等であり、画像処理装置は概ね開発を終了し、太陽電池向け検査装置の一部は販売を開始しております。その他は、さらなる機能の向上、特性の改善へ向け継続開発中であります。なお、当連結会計年度における研究開発費用は185百万円となっております。

(3) 産業機器事業

産業機器事業の研究開発は、当社産業機器部が担当しております。当部門においても検査計測機器事業と同様に開発リスクや開発効率を考慮し、優秀な先端技術を有する大学等を積極的に活用することにより、委託研究や共同開発を進め、その成果を取り込んでおります。当連結会計年度における主要テーマは、高分子アクチュエータ研究、圧力センサー開発および超精密加工技術研究であり、それぞれ継続研究・開発中であります。なお、当連結会計年度における研究開発費用は11百万円となっております。

(4) エクステリア事業

エクステリア事業の研究開発は、当社エクステリア工場開発課が担当し、エクステリア分野に新しい感覚と高機能を取り入れ、トータルでお客様の利便性を追及する開発を行っております。当連結会計年度における主要テーマは日射コントロール商品、ソーラー関連商品、セキュリティ関連商品の開発等であり、それぞれ継続開発中であります。なお、当連結会計年度における研究開発費用は8百万円となっております。

(5) その他

当セグメントにおいては研究開発活動を行っておりません。

7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

当連結会計年度の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況分析は、以下のとおりであります。

なお、本項に記載した予想、見込み等の将来に関する事項は、有価証券報告書提出日（平成23年6月29日）現在において当社グループが判断したものであり、将来に関する事項には不確実性が内在されております。そのため、予測等の将来に関する事項は実際の結果と大きく異なる可能性があります。

(1) 重要な会計方針および見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表の作成にあたり、採用している重要な会計基準は「第5経理の状況 1連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載のとおりであります。

当社グループの連結財務諸表の作成においては、経営者による会計方針の選択や適用、資産・負債および収益・費用の報告および開示に影響を与える見積りを行う必要があります。その見積りには、過去の実績やその時点で入手可能な情報に基づく合理的と考えられる様々な要因を考慮して行っておりますが、実際の結果は見積り特有の不確実性があるため、これらの見積りとは異なる場合があります。

(2) 当連結会計年度の経営成績の分析

① 概要

当社グループの当連結会計年度の経営成績は、中国をはじめとするアジア圏の新興国の経済成長などを背景に回復の兆しが見られたものの、円高基調の継続や高い失業率を背景に、また当年度末に発生した東日本大震災の影響等、厳しい経済状況のなか、当連結会計年度の売上高は前連結会計年度と比較して22.9%増収の17,203百万円となりました。営業利益は712百万円（前連結会計年度は営業損失816百万円）、当期純利益は907百万円（前連結会計年度は当期純損失820百万円）となりました。

② 売上高

売上高は前連結会計年度と比較して22.9%増収の17,203百万円となりました。

住生活関連機器事業における売上高は、前連結会計年度と比較して16.6%増収の7,098百万円となりました。これは、国内及び中国オフィス家具市場向け新製品開発を積極化するとともに、医療・福祉向け製品の製品開発体制・販売体制の強化を図ったこと等によるものであります。

検査計測機器事業における売上高は、前連結会計年度と比較して31.5%増収の6,114百万円となりました。これは、主に液晶テレビ需要の拡大等に合わせ液晶パネル製造設備投資が堅調に推移したことによるものであります。

産業機器事業における売上高は、前連結会計年度と比較して54.4%増収の1,525百万円となりました。これは、企業の設備投資の回復により金融機器・織機・半導体関連機器向けの電磁アクチュエータの需要が堅調に推移したこと等によるものであります。

エクステリア事業における売上高は、前連結会計年度と比較して17.0%増収の737百万円となりました。これはオーニングの需要が増加傾向で推移したこと等によるものであります。

その他の事業の売上高は、企業の設備投資の回復を受け、販売は堅調に推移し、前連結会計年度と比較して5.2%増収の1,727百万円となりました。

③ 売上原価、販売費及び一般管理費

売上原価は、前連結会計年度の12,795百万円から1,210百万円増加し、14,005百万円となりました。売上高に対する売上原価の比率は積極的なコスト削減に努めた結果、10.0ポイント減少して81.4%と改善しました。その結果、売上総利益は前連結会計年度の1,203百万円から1,994百万円増加し、3,197百万円となり、売上総利益率は前連結会計年度比10.0ポイント増加の18.6%となりました。

販売費及び一般管理費は、前連結会計年度と比較して23.0%、465百万円増加し、2,485百万円となりました。売上高に対する販売費及び一般管理費の比率は前連結会計年度と同様の14.4%となっております。

④ 営業損益

以上の結果により、営業損益は、前連結会計年度の営業損失816百万円に対し、1,528百万円改善し営業利益712百万円となりました。セグメント別の内容につきましては、住生活関連機器事業の営業損益は前連結会計年度から売上高の大幅な増加はあったものの、販売価格の低下、資材価格の高騰等の影響を受け、営業損失21百万円となりました。検査計測機器事業の営業損益は業務プロセスの改革運動の効果等が顕在化したこともあり、営業利益481百万円となりました。産業機器事業の営業損益は前連結会計年度から売上高が大幅に増加した結果、営業利益300百万円となりました。エクステリア事業の営業損益は売上高は増収となりましたが、販売価格の低

下傾向、販売体制の拡充に関するコスト増等の要因により、営業損失107百万円となりました。また、その他の事業の営業損益は企業の設備投資の回復を受け営業利益69百万円となりました。

⑤ 営業外収益（費用）

営業外収益（費用）は、前連結会計年度の136百万円の収益（純額）から、60百万円の収益（純額）と減少いたしました。これは主に、受取利息から支払利息を差し引いた純額は、前連結会計年度の26百万円の収益に対し、当連結会計年度は33百万円の収益と増加したものの、前連結会計年度においては経営合理化施策の一環として実施した一時帰休の実施にともなう雇用調整助成金による収入92百万円が当連結会計年度においては26百万円と66百万円減少したこと等により、営業外収益（純額）が減少したものであります。

⑥ 経常損益

以上により、経常利益は772百万円（前連結会計年度は経常損失679百万円）となりました。

⑦ 特別損益

特別損益は前連結会計年度の64百万円の利益（純額）から、28百万円の損失（純額）となりました。これは、主に前連結会計年度に計上した貸倒引当金戻入益81百万円が当連結会計年度においては10百万円と71百万円減少したこと等によるものであります。

⑧ 税金等調整前当期純損益

以上により、税金等調整前当期純利益は743百万円（前連結会計年度は税金等調整前当期純損失614百万円）となりました。

⑨ 法人税等

法人税、住民税及び事業税155百万円、法人税等調整額△319百万円の計上により、法人税等合計は△163百万円となりました。なお、当連結会計年度においては繰延税金資産の回収可能性を見直したことにより、主に評価性引当額が減少いたしました。その結果、繰延税金資産が増しております。

なお、繰延税金資産に関する詳細な内容は「第5経理の状況 1連結財務諸表等（1）連結財務諸表 注記事項（税効果会計関係）」に記載のとおりであります。

⑩ 当期純損益

当期純利益は907百万円（前連結会計年度は当期純損失820百万円）となりました。なお、1株当たり当期純損益は前連結会計年度1株当たり当期純損失54円01銭に対し、当連結会計年度は1株当たり当期純利益59円71銭となりました。

(3) 当連結会計年度の財政状態の分析

① 流動資産

当連結会計年度末における流動資産の残高は、23,321百万円（前連結会計年度末は19,856百万円）となり、3,464百万円増加しました。これは主に、検査計測装置にかかる収益の計上基準を変更したことに伴い売上債権が1,431百万円減少したものの、前受金の増加等に伴い現金及び預金が2,636百万円増加したことと、仕掛品が1,560百万円増加したこと等によるものであります。

② 固定資産

当連結会計年度末における固定資産合計の残高は、11,219百万円（前連結会計年度末は10,743百万円）となり、475百万円増加しました。これは主に、当連結会計年度中の有形固定資産の減価償却等による有形固定資産の減少116百万円、繰延税金資産の減少37百万円の減少の一方、投資有価証券の増加180百万円、投資その他の資産のその他に含まれる長期預金450百万円の増加等によるものであります。

③ 流動負債

当連結会計年度末における流動負債の残高は、7,672百万円（前連結会計年度末は4,451百万円）となり、3,220百万円増加しました。これは主に、売上高の増加にともなう仕入増加により支払手形及び買掛金が417百万円増加したこと、検査計測装置にかかる収益の計上基準の変更に伴い、前受金が1,778百万円増加したこと等によるものであります。

④ 固定負債

当連結会計年度末における固定負債の残高は、728百万円（前連結会計年度末は788百万円）となり、60百万円減少しました。主な減少要因は、長期借入金の減少45百万円等によるものであります。

⑤ 純資産

当連結会計年度末における純資産合計残高は、26,139百万円（前連結会計年度末は25,359百万円）となり、779百万円増加しました。主な増加要因は、当期純利益907百万円の計上による利益剰余金の増加等によるものであります。

(4) 経営成績に重要な影響を与える要因について

当社グループの経営成績に重要な影響を与える主な要因は以下のとおりであります。

東日本大震災にともなう一連の事故等による国内経済への影響は大きく、引き続き、景気回復が停滞した場合、当社グループの各事業部門が参入する市場における需要も低迷を続け、当社グループ全体の経営成績に重要な影響を及ぼすことが考えられます。

また、今後も引き続き内需を中心に堅調な景気拡大を続けると見込まれる中国に関わる需要について、当社グループとしてもその取り込みを行うべくグローバル化への対応を行ってまいります。当社グループが今後とる中国市場向けの事業展開によっては、当社グループの経営成績に重要な影響を与える可能性があります。

当社グループ住生活関連機器事業の主力であるオフィス家具業界において、首都圏におけるオフィスビル建設は回復基調に推移するものの、企業の設備投資意欲の減退により、需要が大幅に減少した場合、また、国内オフィス家具市場に東南アジア等で生産される廉価品のオフィス椅子が大量に流入した場合は住生活関連機器の経営成績に重要な影響を与える可能性があります。

当社グループ検査計測機器事業の主力製品である検査計測装置の主要な需要先は日本・台湾・韓国・中国における液晶カラーフィルターメーカー・液晶パネルメーカーであり、同装置事業の経営成績は液晶製造業界の設備投資動向に大きな影響を受けます。これらの業界の設備投資は市況の影響を受け、大きな需要変動が生じる可能性があり、今後の設備投資動向によっては、検査計測機器事業の経営成績に重要な影響を与える可能性があります。

その他に、経営成績に重要な影響を与える要因には「第2 事業の状況 4 事業等のリスク」に記載した要因が考えられます。

(5) 経営戦略の現状と見通し

当社グループといたしましては、これらの状況をふまえて、中期的な行動指針として「大胆な意識改革・構造改革を行う」、「新しいことに積極的に挑戦し、差別化を進める」、「グローバルの視点で考え、行動する」、「ものづくり+αで新たな価値を創出する」を掲げ、今ある危機を克服し、新たな成長路線を築くことを通じて企業価値の向上を目指してまいります。

セグメント別では、住生活関連機器事業においては資材の調達コストの低減に努め、内製化の促進を進める、また海外需要の動向を見直し、さらなる高付加価値の商品開発を行い、新製品・新分野の事業化と販売の拡大を目指してまいります。

検査計測機器事業においては、プロセス改革活動を今後さらに推進し、内製化の推進と固定費圧縮を通じた利益体質の構築を図るとともに、液晶等のFPD（フラット・パネル・ディスプレイ）向け検査装置分野における勝ち残りFPD向け以外の分野の拡大でバランスのとれた事業構造を構築すべく、新技術開発による既存FPD向け高コストパフォーマンス検査装置の市場投入と太陽電池・半導体関係等のFPD向け以外の検査装置分野の早期の販売拡大を行うべく、資源を傾注させてまいります。

また、今後の市場拡大が期待される中国市場に対しては、当社グループの各事業部門における製品の中国向け需要を取り込むべく、現地法人を最大限活用し、グローバル化への対応を行ってまいります。

(6) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

① 資金の流動性についての分析

当社グループの当連結会計年度の資金状況は、営業活動によるキャッシュ・フローでは、前連結会計年度と比較して1,698百万円増加し、3,677百万円のキャッシュ・イン・フローとなっております。これは主に検査計測装置にかかる収益の計上基準の変更に伴う仕掛品の増加による棚卸資産の増加額1,890百万円の支出の一方、税金等調整前当期純利益743百万円、売上債権の減少額1,436百万円、前受金の増加額1,778百万円（棚卸資産の増加額と同様、検査計測装置にかかる収益の計上基準の変更に伴う増加）等の収入により、前連結会計年度と比較し、収入増となったものであります。

投資活動によるキャッシュ・フローでは、前連結会計年度と比較して337百万円使用した資金が増加し、979百万円の資金を使用しました。これは主に投資有価証券の取得による支出が前連結会計年度比252百万円減少し、

投資有価証券の売却及び償還による収入が前連結会計年度と比較して379百万円増加する一方、定期預金の預入と払戻に係る収支が前連結会計年度の154百万円の収入から当連結会計年度においては520百万円の支出となったこと、有形固定資産の取得による支出が前連結会計年度比141百万円増加したこと等によるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フローでは、前連結会計年度と比較して106百万円少ない112百万円の資金を使用しました。これは主にリース債務の返済に関する支出が前連結会計年度比4百万円増加する一方、長期借入金に関する収支が111百万円の収入増となったこと等によるものであります。

② 資本の源泉についての分析

当社グループの資金需要のうち主なものは、製品製造のための材料・部品の購入のほか、製造に係る労務費・経費、販売費及び一般管理費等の営業費用によるものおよび売上債権等の運転資金であります。検査計測機器事業は当社グループにおける他の事業分野と比較して運転資金の回収期間が長期にわたります。そのため、今後、売上高の成長が見られた場合、運転資金もそれに応じて増加していくことが見込まれます。

また、製品・サービスの競争力を向上させていくために、今後積極的かつ継続的に研究開発活動を行っていく必要があると認識しており、研究開発費も当社グループの重要な資金需要先であると考えております。

当社グループの財務状態としては、当連結会計年度末における流動比率は304.0%、固定比率は42.9%、また、自己資本比率は75.7%であり比較的健全な財務状態であると認識しております。現在、運転資金および設備投資資金につきましては、基本的に内部資金より賄う予定であります。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当社グループでは、生産設備の合理化等を中心に371百万円の設備投資を実施しました。
当連結会計年度の設備投資（有形固定資産、無形固定資産）の内訳は次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度
住生活関連機器	195百万円
検査計測機器	89
産業機器	40
エクステリア	22
その他	23
合計	371

なお、当連結会計年度において重要な影響を及ぼす設備の除却、売却等はありません。

2【主要な設備の状況】

主要な設備の内容は、次のとおりであります。

(1) 提出会社

平成23年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額					従業員数 (人)	
			建物及び構 築物 (百万円)	機械装置及 び運搬具 (百万円)	土地 (百万円) (面積㎡)	リース 資産 (百万円)	その他 (百万円)		合計 (百万円)
伊那工場 (長野県伊那市)	住生活関連 機器	オフィス家 具製造設 備、 健康福祉関 連機器製造 設備	243	312	345 (29,847)	29	106	1,037	111 [21]
下島工場 (長野県伊那市)	住生活関連 機器	オフィス家 具製造設備	167	97	278 (25,141)	3	16	562	75 [15]
宮田工場 (長野県上伊那郡 宮田村)	その他	ばね製品製 造設備	69	77	111 (14,225)	—	27	285	22 [14]
特品工場 (長野県上伊那郡 宮田村)	産業機器	電磁アクチ ュエータ等 製品製造設 備	20	23	73 (8,624)	—	34	153	24 [13]
南平工場 (長野県上伊那郡 宮田村)	検査計測機 器	検査計測装 置製品製造 設備	315	45	257 (36,260)	—	62	681	113 [10]
馬住工場 (長野県駒ヶ根 市)	エクステリ ア	エクステリ ア製品製造 設備	82	5	165 (43,276)	6	12	273	17 [7]
本社 (長野県上伊那郡 宮田村)	全社(共 通)	統括業務施 設	112	2	526 (39,597)	—	31	673	32 [0]
東京営業所 (東京都千代田 区)	検査計測機 器 産業機器 エクステリ ア	販売業務施 設	216	0	2,277 (175)	1	3	2,500	23 [0]

(2) 国内子会社

平成23年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額						従業員数 (人)
				建物及び建 築物 (百万円)	機械装置及び 運搬具 (百万円)	土地 (百万円) (面積㎡)	リース 資産 (百万円)	その他 (百万円)	合計 (百万円)	
(株)ニッコー	(長野県上 伊那郡宮田 村)	その他	販売業務施 設	73	0	84 (3,785)	14	2	175	8 [5]

- (注) 1. 帳簿価額のうち「その他」は、工具、器具及び備品、建設仮勘定、無形固定資産（リース資産を除く）であります。なお金額には消費税等は含んでおりません。
2. 従業員数の [] は、臨時従業員を外書しております。
3. 現在休止中の主要な設備はありません。

3 【設備の新設、除却等の計画】

当連結会計年度後1年間の設備投資計画（新設・拡充）は、1,141百万円であり、セグメントごとの内訳は次のとおりであります。

平成23年3月31日現在

セグメントの名称	平成23年3月末計画金額 (百万円)	設備等の主な内容・目的	資金調達方法
住生活関連機器	281	合理化、省力化、信頼性向上	自己資金及びフ ァイナンス・リ ース
検査計測機器	217	同上	同上
産業機器	217	同上	同上
エクステリア	57	同上	同上
その他	13	同上	同上
小計	786		
全社（共通）	354	全社システム関連投資	自己資金及びフ ァイナンス・リ ース
合計	1,141		

- (注) 1. 金額には消費税等を含めておりません。
2. 経常的な設備の更新のための除売却を除き、重要な設備の除売却の計画はありません。
3. 各セグメントの計画概要は、次のとおりであります。
- 住生活関連機器は、オフィス家具製造設備投資219百万円、健康福祉関連機器製造設備投資61百万円であります。
- 検査計測機器は、フラット・パネル・ディスプレイ検査装置新製品関連投資17百万円、レーザ加工装置関連等の新製品開発134百万円であります。
- 産業機器は、電磁アクチュエータ製造用設備投資87百万円、製造工場改修129百万円であります。
- エクステリアは、エクステリア製品製造関連投資19百万円、製造工場新設38百万円であります。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数（株）
普通株式	50,000,000
計	50,000,000

②【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (平成23年3月31日)	提出日現在発行数（株） (平成23年6月29日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	15,721,000	15,721,000	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数 100株
計	15,721,000	15,721,000	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (千株)	発行済株式総 数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額（千円）	資本準備金残 高（千円）
平成9年2月17日	200	15,721	216,000	2,015,900	216,000	2,157,140

(注) 有償一般募集

発行済株式数 200千株

発行価格 2,160円

資本組入額 1,080円

(6)【所有者別状況】

平成23年3月31日現在

区分	株式の状況（1単元の株式数100株）								単元未満株 式の状況 (株)
	政府及び地 方公共団体	金融機関	金融商品取 引業者	その他の法 人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数（人）	—	15	17	79	49	2	5,114	5,276	—
所有株式数（単元）	—	23,002	976	40,913	6,104	2	86,196	157,193	1,700
所有株式数の割合 (%)	—	14.63	0.62	26.03	3.88	0.00	54.84	100.00	—

(注) 自己株式524,660株は、「個人その他」に5,246単元及び「単元未満株式の状況」に60株を含めて記載しております。

(7) 【大株主の状況】

平成23年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合 (%)
コクヨ株式会社	大阪市東成区大今里南6丁目1-1	2,151.5	13.68
鷹野 準	長野県上伊那郡宮田村	1,738.7	11.05
堀井 朝運	長野県上伊那郡宮田村	1,487.4	9.46
日本発条株式会社	横浜市金沢区福浦3丁目10	1,151.5	7.32
みずほ信託銀行株式会社	東京都中央区晴海1丁目8-12	1,000.0	6.36
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	東京都中央区晴海1丁目8-11	557.4	3.54
タカノ株式会社	長野県上伊那郡宮田村137	524.6	3.33
鷹野 力	長野県上伊那郡宮田村	416.1	2.64
CBNY DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO (常任代理人 シティバンク銀行株式会社)	388 GREENWICH STREET, NY, NY 10013, USA (東京都品川区東品川2丁目3-14)	305.8	1.94
株式会社八十二銀行 (常任代理人 日本マスタートラスト信託銀行株式会社)	長野県長野市中御所岡田178-8 (東京都港区浜松町2丁目11-3)	283.9	1.80
計	—	9,616.9	61.17

(注) 1. みずほ信託銀行株式会社の所有株式数のうち、1,000.0千株は日本発条株式会社の信託財産であります。

2. 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社の所有株式数のうち、549.6千株は信託業務に係るものであります。

(8) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成23年3月31日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	普通株式 524,600	—	—
完全議決権株式 (その他)	普通株式 15,194,700	151,947	—
単元未満株式	普通株式 1,700	—	—
発行済株式総数	15,721,000	—	—
総株主の議決権	—	151,947	—

② 【自己株式等】

平成23年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数 (株)	他人名義所有株式数 (株)	所有株式数の合計 (株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合 (%)
タカノ株式会社	長野県上伊那郡宮田村137番地	524,600	—	524,600	3.33
計	—	524,600	—	524,600	3.33

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得。

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数 (株)	価額の総額 (円)
当事業年度における取得自己株式	40	21,960
当期間における取得自己株式	—	—

(注) 当期間における取得自己株式には、平成23年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数 (株)	処分価額の総額 (円)	株式数 (株)	処分価額の総額 (円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	—	—	—	—
消却の処分を行った取得自己株式	—	—	—	—
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	—	—	—	—
その他 (—)	—	—	—	—
保有自己株式数	524,660	—	524,660	—

(注) 当期間における保有自己株式数には、平成23年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

3 【配当政策】

当社は株主に対する利益還元が経営上の重要政策であると考え、より安定した経営基盤の確立と自己資本利益率の向上を図ると同時に、業績の進捗状況、配当性向等を勘案しながら長期安定した利益の還元を行っていくことを基本方針としております。

当社は、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本的な方針としておりますが、中間配当の実施に関しては業績の進捗の状況に応じてこれを随時決定するものとしたいと存じます。

これらの剰余金の配当の決定機関は、中間配当、期末配当ともに取締役会であります。

当事業年度の配当につきましては、上記基本方針等に基づき、当事業年度の業績進捗を鑑み、前事業年度より3円増配の1株当たり8円の配当といたしました。

なお、内部留保資金につきましては、経営基盤の拡充、競争力の強化を図るため、新製品開発投資や合理化推進のための投資および新規事業開発のための投資など、有効に活用してまいりたいと存じます。

当社は、「会社法第459条第1項の規定に基づき、取締役会の決議をもって剰余金の配当等を行うことができる」旨定款に定めております。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)
平成23年5月20日 取締役会決議	121,570	8

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第54期	第55期	第56期	第57期	第58期
決算年月	平成19年3月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月
最高(円)	3,000	1,436	1,112	678	620
最低(円)	1,200	706	282	430	367

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成22年10月	平成22年11月	平成22年12月	平成23年1月	平成23年2月	平成23年3月
最高(円)	450	446	497	531	598	584
最低(円)	378	367	424	464	485	371

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

5 【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 社長	経営全般	鷹野 準	昭和24年1月7日生	昭和46年4月 日発販売㈱入社 昭和49年3月 当社入社 昭和53年8月 当社取締役就任 昭和57年9月 当社常務取締役就任 昭和60年9月 当社専務取締役就任 平成2年8月 ㈱ニッコー代表取締役社長就任(現任) 平成9年4月 タカノ機械㈱代表取締役社長就任(現任) 平成10年6月 当社代表取締役社長就任(現任)	(注)4	1,738.7
常務取締役	ユニット部門、エクステリア部門、経営改革推進室管掌	鷹野 力	昭和26年12月3日生	昭和52年4月 ㈱牧野フライス製作所入社 昭和55年1月 当社入社 平成2年7月 当社家具事業部開発部長 平成2年9月 当社取締役就任 平成6年6月 当社家具開発部長 平成8年6月 当社常務取締役就任(現任) 平成22年1月 上海鷹野商貿有限公司董事長就任(現任)	(注)4	416.1
常務取締役	エレクトロニクス部門管掌	小田切 章	昭和22年9月10日生	昭和48年4月 ㈱三協精機製作所入社 昭和61年9月 当社入社 平成9年4月 当社メカトロ部長 平成9年6月 当社取締役就任 平成18年5月 Takano Korea Co.,Ltd. 代表理事就任(現任) 平成18年6月 当社常務取締役就任(現任) 平成19年1月 台湾鷹野股份有限公司董事長就任(現任)	(注)4	13.3
常務取締役	経理部、人事部、企画室、ネットワーク部管掌	大原 明夫	昭和23年3月23日生	昭和46年4月 ㈱日本興業銀行入行 平成13年8月 当社入社、当社企画室長 平成15年7月 当社経理部長 平成17年6月 当社取締役就任 平成19年6月 当社常務取締役就任(現任)	(注)4	3.9
取締役	家具部門管掌	窪田 守男	昭和23年11月13日生	昭和48年4月 当社入社 平成8年7月 当社人事部主管 平成10年6月 当社家具統括部部长 平成11年7月 当社家具部門管理部部長 平成14年6月 当社取締役就任(現任)	(注)4	16.7
取締役	新事業開発部長	久留島 馨	昭和31年3月12日生	昭和54年4月 日発販売㈱入社 平成2年9月 当社入社、営業開発部主査 平成6年6月 当社営業開発部画像計測グループ営業課長 平成8年1月 当社営業開発本部(現エレクトロニクス部門)画像営業部長 平成18年6月 当社取締役就任(現任) 平成22年7月 当社新事業開発部長(現任)	(注)4	5.7
取締役	健康福祉部門管掌	臼井 俊行	昭和29年2月28日生	昭和51年4月 株式会社八十二銀行入行 平成18年6月 同行執行役員就任 平成19年6月 当社取締役就任(現任)	(注)4	2.2

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役		黒田 章裕	昭和24年9月28日生	昭和47年4月 コクヨ(株)入社 昭和52年12月 同社取締役就任 昭和55年8月 当社取締役就任(現任) 昭和56年12月 コクヨ(株)常務取締役就任 昭和60年12月 同社専務取締役就任 昭和62年12月 同社取締役副社長就任 平成元年8月 同社代表取締役社長就任(現任)	(注)4	—
取締役		山口 努	昭和22年2月28日生	昭和44年4月 日本発条(株)入社 平成11年6月 同社取締役就任 平成16年6月 同社常務取締役就任 平成17年6月 同社常務執行役員就任 平成19年6月 同社取締役専務執行役員就任 平成22年6月 同社代表取締役副社長就任(現任) 平成23年6月 当社取締役就任(現任)	(注)4	—
常勤監査役		戸枝 茂夫	昭和22年5月7日生	昭和45年3月 当社入社 平成5年5月 株式会社ニッコー監査役就任(現任) 平成9年4月 タカノ機械株式会社監査役就任(現任) 平成9年8月 当社経理部部長 平成15年6月 当社常勤監査役就任(現任)	(注)5	10.9
監査役		長谷川 洋二	昭和27年12月9日生	昭和54年3月 司法研修所卒業 昭和54年4月 弁護士登録 平成15年6月 当社監査役就任(現任)	(注)5	—
監査役		小澤 輝彦	昭和22年5月12日生	昭和45年4月 株式会社八十二銀行入行 平成13年6月 同行常勤監査役就任 平成18年6月 アルプス証券株式会社(現八十二証券株式会社)代表取締役社長就任 平成23年6月 八十二証券株式会社取締役相談役就任(現任) 平成23年6月 当社監査役就任(現任)	(注)5	—
計						2,207.5

- (注) 1. 取締役黒田章裕および山口 努は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。
2. 監査役長谷川洋二および小澤輝彦は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。
3. 常務取締役鷹野力は代表取締役社長鷹野準の実弟であります。
4. 平成23年6月29日開催の定時株主総会の終結のときから1年間
5. 平成23年6月29日開催の定時株主総会の終結のときから4年間

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

① 企業統治の体制

イ. 企業統治の体制の概要

当社は取締役会を設置しており、取締役会は法令または定款に定める事項のほか、取締役会規則に定める経営上の業務執行の基本事項について意思決定を行っております。また、取締役会を取締役の職務の執行を監督する機関と位置付け、2名選任している社外取締役およびその他の各取締役がそれぞれ他の業務執行取締役の職務執行を監督しております。

当社は、迅速かつ効率的な業務執行を目的に、常勤取締役および常勤監査役で構成される経営会議を設置しております。経営会議は経営会議規程の定めに従い、取締役会付議事項の立案を行うほか、経営上の重要事項の審議、決定を行っております。

ロ. 企業統治の体制を採用する理由

当社は、企業競争力強化を実現するための迅速な経営意思決定および経営の透明性確保のための経営チェック機能拡充の両立を図ることを経営の重要課題として認識しております。そのため、社外監査役2名による独立的な監査を含め、監査役による監査の充実を図るとともに、各事業部門を管掌する業務執行取締役が取締役会メンバーとなることにより、迅速な意思決定を行い、かつ、他の事業部門を管掌する業務執行取締役および代表取締役の業務執行状況を相互監督する体制を敷くことで、経営の効率化と経営に対する監督を両立できるものと考え、現状の企業統治の体制を採用しているものであります。

ハ. 内部統制システムの整備の状況

当社は内部統制システムの一環として、社長直属の組織である内部監査室を設置しております。内部監査室は、監査役および会計監査人との連携により、随時必要な監査を行っており、内部管理体制の充実化を図っております。

ニ. 責任限定契約の内容

当社と社外取締役および社外監査役は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、会社法第427条第1項に規定する最低責任限度額であります。なお、当該責任限定が認められるのは、当該社外取締役または社外監査役が責任の原因となった職務の遂行について善意かつ重大な過失がないときに限られます。

② 内部監査および監査役監査の状況

当社は監査役制度を採用しており、監査役3名（うち非常勤の社外監査役2名）の体制で監査役会を運営しております。常勤監査役は1名であり、取締役会、経営会議などの重要な会議に積極的に出席するなど監査の充実を図り、取締役の業務執行を十分に監視できる体制となっております。

また、常勤監査役は当社の経理部に昭和60年9月から平成15年6月まで在籍し、通算18年にわたり決算手続ならびに財務諸表等の作成に従事しており、財務および会計に関する相当程度の知見を有しております。

なお、監査役の補助を行う専任部署、専任スタッフは設置していないものの、監査役より要請ある場合は監査役を補助すべき必要な人員を配置することとしております。

他の部門から独立した立場で組織内部管理の体制の適正性および業務の効率性評価を行うとともに、管理体制および業務の改善を図る目的をもった内部監査室を設置しております。内部監査室の人員は内部監査室長1名であり、内部監査室は社内規程である内部監査規程に基づき、適法で効率的な業務執行を確保すべく、社内の各部署に対して定期的に必要な監査を行い、代表者への報告を実施しております。

常勤監査役、内部監査室長および会計監査人は日常、必要な意見交換を行い、監査の品質の向上に努めており、監査役は必要に応じて、会計監査人に監査役会への参加を要請するなど、緊密な連携を取っているほか、監査役は効率的な監査役監査の実施を行うため、内部監査室の運営方針、業務実施状況、監査報告を閲覧できるとともに、相互に監査調書等情報の共有を行っております。また、監査役は取締役の同意のもと、必要に応じて内部監査室に調査を依頼することができるものとしております。

③ 会計監査の状況

当期において会計監査業務を執行した公認会計士は、福井利幸氏および小松聡氏であり、有限責任監査法人トーマツに所属しております。なお、当期の会計監査業務に係る補助者は公認会計士3名、会計士補等6名でありました。

④ 社外取締役および社外監査役

当社の社外取締役は2名、社外監査役は2名であります。

社外取締役黒田章裕氏は当社大株主であるコクヨ株式会社（出資比率13.68%）の代表取締役であり、当社は

コクヨ株式会社の子会社との間に製品販売、原材料の一部仕入の取引関係があります。

社外取締役山口努氏は当社大株主である日本発条株式会社（出資比率13.68%）の代表取締役副社長に就任しております。当社は日本発条株式会社との間に製品販売、原材料の一部仕入の取引関係があります。

社外監査役長谷川洋二氏は弁護士法人長谷川洋二法律事務所の代表社員を兼務しており、当社は同法人と法律顧問契約を締結しております。

社外監査役小澤輝彦氏は八十二証券株式会社の取締役相談役であり、同社と当社の間で有価証券取次ぎにかかる取引関係があります。

当社は、社外取締役黒田章裕氏に対し、同氏が長年にわたり企業経営を行ってきた経験を活かした取締役会における適切なアドバイスを期待して選任しているものであります。同氏は当社大株主企業の代表取締役であり、独立した立場からの監督という趣旨は十分に満たされない懸念はあるものの、当社事業における業界環境を理解し、かつ、長年にわたる企業経営を行ってきた経験とノウハウを保有しており、それらの観点からの当社の業務執行の妥当性を適切に監督することは可能と考えております。

当社は、社外取締役山口努氏に対し、同氏が長年にわたり企業経営を行ってきた経験を活かした取締役会における適切なアドバイスを期待して選任しているものであります。同氏は当社大株主および取引先企業の代表取締役であり、独立した立場からの監督という趣旨は十分に満たされない懸念はあるものの、当社一部事業における業界環境を理解し、かつ、長年にわたる企業経営を行ってきた経験とノウハウを保有しており、それらの観点からの当社の業務執行の妥当性を適切に監督することは可能と考えております。

当社は、社外監査役長谷川洋二氏に対し、弁護士資格を持つ同氏よりの内部統制の整備及び様々な経営判断にあたっての高度な法律面からのアドバイスを期待して選任しているものであります。同氏は当社の顧問弁護士として当社から報酬を受け取っている事実はあるものの、当社と委託契約を受けたものとして当社の利益の最大化のために法律面からの客観的な意見を述べていること、同氏に対する報酬は、同氏にとって当社に経済的に依存するほど多額なものではなく、同氏は当社の経営陣からの著しいコントロールを受けうる立場にありません。よって、一定の独立性を備えた社外監査役であると認識しております。

当社は、社外監査役小澤輝彦氏に対し、金融機関における深い実務経験に基づく金融リスク、信用リスク等を含めた経営判断における適切なアドバイスを期待して選任しているものであります。同氏は平成18年6月まで当社の主要取引金融機関の監査役に就任しており、その後は当該主要取引金融機関の子会社である金融商品取引業者の代表取締役就任し、現在は同金融商品取引業者の取締役相談役に就任しております。同金融商品取引業者と当社の間には有価証券取次ぎにかかる取引関係がありますが、取引の重要性が乏しいことから当社はコントロールを受ける立場にありません。同氏は、金融機関における経験とノウハウを保有しており、それらの観点から当社の業務執行の妥当性を適切に監査することは可能であると判断しております。

また、当社としましては現時点のこれらの社外取締役、社外監査役の選任状況は当社の企業統治に有効な機能を果たしているものと判断しております。

なお、社外取締役及び社外監査役による監督または監査と内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係については、以下のとおりであります。

社外取締役と内部監査、監査役監査、会計監査については特段の連携はなく、内部統制部門との特段の関係もありません。

社外監査役と監査役監査の関係においては、監査役会において常勤監査役の監査結果及び重要な会議の内容報告を受け、監査役会議案の検討を行い、また、取締役会に出席し経営全般の監査を行っているほか、代表取締役および取締役会に対して忌憚のない質問をし、または、意見を述べ他の監査役と協力し良質な企業統治体制の構築に努めております。

社外監査役と会計監査との関係では、社外監査役が出席する監査役会に必要なに応じて会計監査人が招聘され、相互に必要な情報交換を行っております。

社外監査役と内部監査との関係では、常勤監査役を通じて、間接的ながら「②内部監査および監査役監査の状況」に記載の連携を行っております。

社外監査役と内部統制部門とは特段の関係はありません。

(注) 日本発条株式会社の出資比率の算出にあたりましては、同社が退職給付信託の信託財産として拠出している当社株式1,000千株（出資比率6.36%）を含んで算出しております。

⑤ 役員報酬等

イ. 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額 (千円)			対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	役員賞与引当金 繰入額	役員退職慰労引 当金繰入額	
取締役 (社外取締役を除く。)	98,148	86,248	2,900	9,000	7
監査役 (社外監査役を除く。)	10,580	9,300	280	1,000	1
社外役員	8,340	7,320	820	200	4

(注) 1. 役員ごとの報酬等の総額につきましては、1億円以上を支給している役員はおりませんので、記載を省略しております。

2. 取締役の報酬等の総額には、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まれておりません。

3. 取締役の報酬限度額は、平成9年6月27日開催の第44期定時株主総会において月額20百万円（年額240百万円）以内（ただし、使用人分給与は含まない。）と決議しております。

4. 監査役の報酬限度額は、平成19年6月28日開催の第54期定時株主総会において月額2.1百万円（年額25.2百万円）以内と決議しております。

ロ. 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法

当社は役員の報酬等の額またはその算定方法の決定に関する方針は定めておりません。

⑥ リスク管理体制の整備の状況

当社では、リスク管理・コンプライアンス等の強化を図るべく、各種経営リスクを有効に管理する目的をもって、リスク管理委員会を設置しております。なお、取締役会においてもリスク管理に関する議論がなされているほか、各業務執行取締役のもと日常的な社員教育や意識の喚起を図っております。また、顧問弁護士と契約を締結しており、法務問題にかかわる事象について助言と指導を受けられる体制を整備しております。

⑦ 株式の保有状況

イ. 投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額
28銘柄 793,490千円

ロ. 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

前事業年度
特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
キッセイ薬品工業(株)	151,120	293,626	近隣企業との関係構築のための政策投資目的
(株)八十二銀行	530,564	282,260	取引金融機関との関係構築のための政策投資目的
コクヨ(株)	88,222	68,724	取引先企業との関係構築のための政策投資目的
日本発条(株)	57,031	48,932	取引先企業との関係構築のための政策投資目的
(株)ヤマウラ	179,500	36,438	取引先企業との関係構築のための政策投資目的
(株)みずほフィナンシャルグループ	137,000	25,345	取引金融機関との関係構築のための政策投資目的
丸一鋼管(株)	11,165	21,168	取引先企業との関係構築のための政策投資目的
日発販売(株)	90,500	20,905	取引先企業との関係構築のための政策投資目的
(株)住生活グループ	8,000	15,224	取引先企業との関係構築のための政策投資目的
養命酒製造(株)	8,691	7,821	近隣企業との関係構築のための政策投資目的

当事業年度
特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
(株)八十二銀行	530,564	254,140	取引金融機関との関係構築のための政策投資目的
キッセイ薬品工業(株)	151,120	235,747	近隣企業との関係構築のための政策投資目的
コクヨ(株)	88,222	56,109	取引先企業との関係構築のための政策投資目的
日本発条(株)	58,306	48,044	取引先企業との関係構築のための政策投資目的
(株)ヤマウラ	179,500	43,259	取引先企業との関係構築のための政策投資目的
(株)みずほフィナンシャルグループ	200,000	27,600	取引金融機関との関係構築のための政策投資目的
丸一鋼管(株)	11,165	22,944	取引先企業との関係構築のための政策投資目的
日発販売(株)	90,500	20,181	取引先企業との関係構築のための政策投資目的
(株)住生活グループ	8,000	17,280	取引先企業との関係構築のための政策投資目的
養命酒製造(株)	8,691	6,839	近隣企業との関係構築のための政策投資目的
凸版印刷(株)	7,091	4,651	取引先企業との関係構築のための政策投資目的
(株)トーブラ	27,951	3,298	取引先企業との関係構築のための政策投資目的
日本パワーファスニング(株)	23,478	3,052	取引先企業との関係構築のための政策投資目的
大豊工業(株)	3,367	2,488	関連業界動向等把握のための政策投資目的
マックス(株)	2,000	2,054	関連業界動向等把握のための政策投資目的
第一生命保険(株)	10	1,255	取引保険会社との関係構築のための政策投資目的

ハ、保有目的が純投資目的である投資株式の前事業年度及び当事業年度における貸借対照表計上額の合計額並びに当事業年度における受取配当金、売却損益及び評価損益の合計額
当社は純投資目的である投資株式は保有しておりません。

⑧ 取締役の定数

当社の取締役は12名以内とする旨定款に定めております。

⑨ 取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨定款に定めております。

⑩ 剰余金の配当等の機関決定

当社は、剰余金の配当等会社法第459条第1項各号に定める事項については、法令に別段の定めある場合を除き、株主総会の決議によらず取締役会の決議により定める旨定款に定めております。これは、剰余金の配当等に関する権限を取締役に付与することにより、機動的な資本政策および配当政策を図ることを目的とするものであります。

⑪ 取締役および監査役の責任免除

当社は、会社法第426条第1項の規定により、取締役会の決議をもって同法第423条第1項の行為に関する取締役および監査役（取締役および監査役であった者を含む。）の責任を法令の限度において免除することができる旨定款に定めております。これは、取締役および監査役が職務を遂行するにあたり、その能力を十分に発揮して、期待される役割を果たしうる環境を整備することを目的とするものであります。

⑫ 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(2) 【監査報酬の内容等】

① 【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬（百万円）	非監査業務に基づく報酬（百万円）	監査証明業務に基づく報酬（百万円）	非監査業務に基づく報酬（百万円）
提出会社	27	1	25	1
連結子会社	—	—	—	—
計	27	1	25	1

② 【その他重要な報酬の内容】

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

該当事項はありません。

③ 【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

(前連結会計年度)

当社が監査公認会計士等に対して報酬を支払っている非監査業務の内容は、基幹情報システムの再構築にあたっての助言・指導等のコンサルティング業務であります。

(当連結会計年度)

当社が監査公認会計士等に対して報酬を支払っている非監査業務の内容は、基幹情報システムの再構築にあたっての助言・指導等のコンサルティング業務であります。

④ 【監査報酬の決定方針】

当社の監査公認会計士等に対する監査報酬の決定方針としましては、事前に見積書の提示を受け、監査日数、監査内容及び当社の規模等を総合的に勘案し、監査役会の同意を得た後に決定することとしております。

第5【経理の状況】

1. 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。
なお、前連結会計年度(平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)は、改正前の連結財務諸表規則に基づき、当連結会計年度(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)は、改正後の連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。
なお、前事業年度(平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)は、改正前の財務諸表等規則に基づき、当事業年度(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)は、改正後の財務諸表等規則に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前連結会計年度(平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)及び当連結会計年度(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)の連結財務諸表並びに前事業年度(平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)及び当事業年度(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)の財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより監査を受けております。

3. 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、連結財務諸表等を作成、開示できる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入しております。

また、必要に応じて、同法人の行う研修等に参加しております。

1 【連結財務諸表等】
 (1) 【連結財務諸表】
 ① 【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成22年 3月31日)	当連結会計年度 (平成23年 3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,670,749	10,307,165
受取手形及び売掛金	8,936,067	7,504,254
有価証券	150,876	52,250
商品及び製品	316,529	467,440
仕掛品	1,902,098	3,463,089
原材料及び貯蔵品	511,945	690,284
繰延税金資産	192,608	581,756
その他	181,478	255,722
貸倒引当金	△5,670	△421
流動資産合計	19,856,683	23,321,541
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	5,407,623	5,441,695
減価償却累計額	△3,995,903	△4,089,894
建物及び構築物（純額）	1,411,719	1,351,800
機械装置及び運搬具	4,721,165	4,604,229
減価償却累計額	△4,043,478	△4,009,259
機械装置及び運搬具（純額）	677,686	594,969
土地	4,229,739	4,229,739
リース資産	29,579	60,352
減価償却累計額	△6,671	△14,982
リース資産（純額）	22,908	45,370
その他	3,138,145	3,011,933
減価償却累計額	△2,918,728	△2,788,411
その他（純額）	219,416	223,522
有形固定資産合計	6,561,470	6,445,402
無形固定資産		
リース資産	14,225	11,516
その他	103,417	107,838
無形固定資産合計	117,643	119,354
投資その他の資産		
投資有価証券	※1 3,311,830	※1 3,492,291
繰延税金資産	296,155	258,381
その他	685,373	1,126,156
貸倒引当金	△228,689	△222,362
投資その他の資産合計	4,064,669	4,654,466
固定資産合計	10,743,782	11,219,223
資産合計	30,600,466	34,540,764

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成22年3月31日)	当連結会計年度 (平成23年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,256,958	3,674,796
リース債務	8,441	13,926
未払法人税等	27,526	152,107
前受金	—	1,801,803
賞与引当金	165,942	450,322
役員賞与引当金	—	5,000
受注損失引当金	147,383	378,818
その他	845,494	1,195,891
流動負債合計	4,451,747	7,672,664
固定負債		
長期借入金	180,000	135,000
リース債務	30,805	46,209
退職給付引当金	437,620	399,743
役員退職慰労引当金	140,320	147,400
固定負債合計	788,746	728,353
負債合計	5,240,493	8,401,018
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,015,900	2,015,900
資本剰余金	2,355,417	2,355,417
利益剰余金	21,299,391	22,130,854
自己株式	△272,366	△272,388
株主資本合計	25,398,342	26,229,783
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△14,937	△61,632
為替換算調整勘定	△23,433	△28,404
その他の包括利益累計額合計	△38,370	△90,036
純資産合計	25,359,972	26,139,746
負債純資産合計	30,600,466	34,540,764

②【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】
【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
売上高	13,999,083	17,203,591
売上原価	※1 12,795,538	※1 14,005,762
売上総利益	1,203,544	3,197,829
販売費及び一般管理費		
発送費	158,446	111,199
役員報酬	125,863	120,168
給料及び手当	542,806	607,749
賞与引当金繰入額	36,201	88,424
役員賞与引当金繰入額	—	5,000
退職給付費用	35,450	35,859
役員退職慰労引当金繰入額	11,760	17,960
研究開発費	※2 272,454	※2 328,924
その他	837,221	1,170,476
販売費及び一般管理費合計	2,020,203	2,485,761
営業利益又は営業損失(△)	△816,658	712,068
営業外収益		
受取利息	32,819	38,153
受取配当金	17,283	19,104
助成金収入	※3 92,543	※3 26,163
その他	29,662	28,128
営業外収益合計	172,308	111,550
営業外費用		
支払利息	6,289	4,563
固定資産除売却損	※4 12,466	※4 12,134
為替差損	817	19,688
コミットメントフィー	6,442	10,482
その他	※5 9,440	4,339
営業外費用合計	35,454	51,208
経常利益又は経常損失(△)	△679,804	772,409
特別利益		
固定資産売却益	※6 18	※6 2,005
投資有価証券売却益	—	8,076
貸倒引当金戻入額	81,572	10,563
保険差益	※7 20,214	—
特別利益合計	101,805	20,644

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
特別損失		
固定資産除却損	※8 31	※8 23,425
固定資産売却損	—	※9 29
関係会社株式評価損	—	2,999
投資有価証券評価損	140	23,047
事業整理損	36,634	—
特別損失合計	36,806	49,503
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失(△)	△614,805	743,551
法人税、住民税及び事業税	38,634	155,700
法人税等調整額	167,243	△319,593
法人税等合計	205,878	△163,892
少数株主損益調整前当期純利益	—	907,444
当期純利益又は当期純損失(△)	△820,683	907,444

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	—	907,444
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	—	△46,694
為替換算調整勘定	—	△4,970
その他の包括利益合計	—	※2 △51,665
包括利益	—	※1 855,778
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	—	855,778
少数株主に係る包括利益	—	—

③【連結株主資本等変動計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	
	株主資本			
資本金				
前期末残高		2,015,900		2,015,900
当期変動額				
当期変動額合計		—		—
当期末残高		2,015,900		2,015,900
資本剰余金				
前期末残高		2,355,417		2,355,417
当期変動額				
当期変動額合計		—		—
当期末残高		2,355,417		2,355,417
利益剰余金				
前期末残高		22,196,057		21,299,391
当期変動額				
剰余金の配当		△75,981		△75,981
当期純利益又は当期純損失(△)		△820,683		907,444
当期変動額合計		△896,665		831,462
当期末残高		21,299,391		22,130,854
自己株式				
前期末残高		△272,366		△272,366
当期変動額				
自己株式の取得		—		△21
当期変動額合計		—		△21
当期末残高		△272,366		△272,388
株主資本合計				
前期末残高		26,295,008		25,398,342
当期変動額				
剰余金の配当		△75,981		△75,981
当期純利益又は当期純損失(△)		△820,683		907,444
自己株式の取得		—		△21
当期変動額合計		△896,665		831,440
当期末残高		25,398,342		26,229,783

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金		
前期末残高	△34,771	△14,937
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	19,834	△46,694
当期変動額合計	19,834	△46,694
当期末残高	△14,937	△61,632
為替換算調整勘定		
前期末残高	△26,628	△23,433
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	3,195	△4,970
当期変動額合計	3,195	△4,970
当期末残高	△23,433	△28,404
その他の包括利益累計額合計		
前期末残高	△61,400	△38,370
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	23,029	△51,665
当期変動額合計	23,029	△51,665
当期末残高	△38,370	△90,036
純資産合計		
前期末残高	26,233,608	25,359,972
当期変動額		
剰余金の配当	△75,981	△75,981
当期純利益又は当期純損失（△）	△820,683	907,444
自己株式の取得	—	△21
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	23,029	△51,665
当期変動額合計	△873,636	779,774
当期末残高	25,359,972	26,139,746

④【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度		当連結会計年度	
	(自	平成21年4月1日	(自	平成22年4月1日
	至	平成22年3月31日)	至	平成23年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー				
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失(△)		△614,805		743,551
減価償却費		501,716		466,914
貸倒引当金の増減額(△は減少)		△81,572		△11,569
賞与引当金の増減額(△は減少)		97,257		284,379
役員賞与引当金の増減額(△は減少)		—		5,000
退職給付引当金の増減額(△は減少)		△56,442		△37,728
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)		11,760		7,080
事業整理損失引当金の増減額(△は減少)		△33,000		—
受注損失引当金の増減額(△は減少)		147,383		231,434
受取利息及び受取配当金		△50,103		△57,258
支払利息		6,289		4,563
為替差損益(△は益)		△793		14,223
固定資産売却損益(△は益)		△18		△1,958
固定資産除却損		12,497		17,924
投資有価証券評価損益(△は益)		140		23,047
投資有価証券売却損益(△は益)		—		△8,076
関係会社株式評価損		—		2,999
その他の営業外損益(△は益)		3,695		—
売上債権の増減額(△は増加)		2,238,132		1,436,998
たな卸資産の増減額(△は増加)		228,151		△1,890,594
その他の資産の増減額(△は増加)		4,557		△60,873
仕入債務の増減額(△は減少)		△379,094		419,166
前受金の増減額(△は減少)		—		1,778,941
未払消費税等の増減額(△は減少)		8,812		55,404
その他の負債の増減額(△は減少)		△95,086		244,800
小計		1,949,476		3,668,371
利息及び配当金の受取額		50,037		55,267
利息の支払額		△6,075		△6,445
法人税等の支払額		△28,522		△46,953
法人税等の還付額		13,320		6,919
営業活動によるキャッシュ・フロー		1,978,236		3,677,159

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△2,066,000	△1,036,000
定期預金の払戻による収入	2,220,176	516,000
有価証券の取得による支出	△207	△102,338
有価証券の売却及び償還による収入	185,545	99,949
有形固定資産の取得による支出	△110,268	△252,117
有形固定資産の売却による収入	112	2,492
投資有価証券の取得による支出	△812,806	△560,161
投資有価証券の売却及び償還による収入	—	379,661
その他の収入	14,470	21,677
その他の支出	△72,285	△48,404
投資活動によるキャッシュ・フロー	△641,262	△979,241
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	—	100,000
長期借入金の返済による支出	△136,000	△125,000
自己株式の取得による支出	—	△21
リース債務の返済による支出	△6,979	△11,422
配当金の支払額	△75,981	△75,981
財務活動によるキャッシュ・フロー	△218,961	△112,426
現金及び現金同等物に係る換算差額	4,379	△19,075
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,122,392	2,566,415
現金及び現金同等物の期首残高	5,918,357	7,040,749
現金及び現金同等物の期末残高	※1 7,040,749	※1 9,607,165

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項】

項目	前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
1. 連結の範囲に関する事項	<p>子会社の株式会社ニッコー、タカノ機械株式会社、台湾鷹野股份有限公司、Takano Korea Co., Ltd.、上海鷹野商貿有限公司の5社を連結の対象としております。</p> <p>上記のうち、上海鷹野商貿有限公司については、当連結会計年度において新たに設立したため、連結の範囲に含めております。</p> <p>また、前連結会計年度において連結子会社でありましたオプトワン株式会社は清算したため、連結の範囲から除いております。なお、清算終了までの損益計算書は連結しております。</p> <p>(会計方針の変更)</p> <p>当連結会計年度より、「連結財務諸表における子会社及び関連会社の範囲の決定に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第22号 平成20年5月13日)を適用しております。</p> <p>なお、これによる損益へ与える影響はありません。</p>	<p>子会社の株式会社ニッコー、タカノ機械株式会社、台湾鷹野股份有限公司、Takano Korea Co., Ltd.、上海鷹野商貿有限公司の5社を連結の対象としております。</p>
2. 持分法の適用に関する事項	<p>関連会社のオプトウエア株式会社、株式会社ヨウホク、株式会社宮田ニューホールドについては、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であり、かつ、全体としても重要性がないため、持分法の適用範囲から除外しております。</p>	同左
3. 連結子会社の事業年度等に関する事項	<p>連結子会社のうち台湾鷹野股份有限公司、Takano Korea Co., Ltd. および上海鷹野商貿有限公司の決算日は12月31日であります。</p> <p>連結財務諸表の作成に当たっては、同日現在の財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。</p>	同左

項目	前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
<p>4. 会計処理基準に関する事項</p> <p>(1) 重要な資産の評価基準および評価方法</p> <p>(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法</p>	<p>イ. 有価証券</p> <p>(イ) _____</p> <p>(ロ) その他有価証券 時価のあるもの 決算日の市場価格等に基づく時価法 (評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定) 時価のないもの 移動平均法による原価法</p> <p>ロ. たな卸資産</p> <p>(イ) 商品及び製品、仕掛品、原材料 総平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法) なお、画像処理検査装置にかかる製品、仕掛品については個別法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)</p> <p>(ロ) 貯蔵品 最終仕入原価法による原価法</p> <p>イ. 有形固定資産(リース資産を除く) 定率法 なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。 建物及び構築物 7年～50年 機械装置及び運搬具 4年～13年 その他 2年～10年</p> <p>ロ. 無形固定資産(リース資産を除く) 定額法 なお、主な償却期間は以下のとおりであります。 ソフトウェア(自社利用) 社内における見込利用可能期間(5年)</p> <p>ハ. リース資産 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。 なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。</p>	<p>イ. 有価証券</p> <p>(イ) 満期保有目的の債券 償却原価法(定額法)</p> <p>(ロ) その他有価証券 時価のあるもの 同左</p> <p>時価のないもの 同左</p> <p>ロ. たな卸資産</p> <p>(イ) 商品及び製品、仕掛品、原材料 総平均法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法) なお、検査計測装置にかかる製品、仕掛品については個別法による原価法(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)</p> <p>(ロ) 貯蔵品 同左</p> <p>イ. 有形固定資産(リース資産を除く) 同左</p> <p>ロ. 無形固定資産(リース資産を除く) 同左</p> <p>ハ. リース資産 同左</p>

項目	前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
(3) 重要な引当金の計上基準	<p>イ. 貸倒引当金 債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率等により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。</p> <p>ロ. 賞与引当金 当社及び連結子会社の一部は、従業員の賞与の支給に充てるため、支給見込額を計上しております。</p> <p>ハ. 役員賞与引当金 当社及び国内連結子会社の一部は役員賞与の支出に備えるため、当連結会計年度における支給見込額に基づき計上しております。なお、当連結会計年度末においては、支給見込額が零のため計上しておりません。</p> <p>ニ. 受注損失引当金 受注契約に係る将来の損失に備えるため、当連結会計年度末時点で将来の損失が確実に見込まれ、かつ、その金額を合理的に見積もることが可能なものについて、将来の損失見込額を計上しております。</p> <p>(追加情報) 当連結会計年度において損失が見込まれる受注契約が発生したため、当該損失見込額を受注損失引当金として計上しております。 これにより、営業損失、経常損失、税金等調整前当期純損失はそれぞれ147,383千円増加しております。 なお、セグメント情報に与える影響は、当該箇所に記載しております。</p>	<p>イ. 貸倒引当金 同左</p> <p>ロ. 賞与引当金 同左</p> <p>ハ. 役員賞与引当金 当社及び国内連結子会社は役員賞与の支出に備えるため、当連結会計年度における支給見込額に基づき計上しております。</p> <p>ニ. 受注損失引当金 受注契約に係る将来の損失に備えるため、当連結会計年度末時点で将来の損失が確実に見込まれ、かつ、その金額を合理的に見積もることが可能なものについて、将来の損失見込額を計上しております。</p>

項目	前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
<p>(4) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算基準</p> <p>(5) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲</p> <p>(6) その他連結財務諸表作成のための重要な事項</p>	<p>ホ. 退職給付引当金</p> <p>当社及び連結子会社の一部は、従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務および年金資産の見込額に基づき計上しております。</p> <p>過去勤務債務は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により費用処理しております。</p> <p>数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生翌連結会計年度から費用処理しております。</p> <p>(会計方針の変更)</p> <p>当連結会計年度より、「「退職給付に係る会計基準」の一部改正（その3）」（企業会計基準第19号 平成20年7月31日）を適用しております。</p> <p>数理計算上の差異を翌連結会計年度から償却するため、これによる営業損失、経常損失、税金等調整前当期純損失に与える影響はありません。</p> <p>本会計基準の適用に伴い発生する退職給付債務の差額の未処理残高はありません。</p> <p>ヘ. 役員退職慰労引当金</p> <p>当社及び国内連結子会社の一部は、役員の退職慰労金の支給に充てるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。</p> <p>外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社等の資産及び負債は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めて計上しております。</p> <p>消費税等の会計処理 税抜方式によっております。</p>	<p>ホ. 退職給付引当金</p> <p>当社及び連結子会社の一部は、従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務および年金資産の見込額に基づき計上しております。</p> <p>過去勤務債務は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により費用処理しております。</p> <p>数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生翌連結会計年度から費用処理しております。</p> <p>ヘ. 役員退職慰労引当金</p> <p>当社及び国内連結子会社は、役員の退職慰労金の支給に充てるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。</p> <p>同左</p> <p>手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3か月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。</p> <p>消費税等の会計処理 同左</p>

項目	前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
5. 連結子会社の資産及び負債の評価に関する事項	連結子会社の資産及び負債の評価については、全面時価評価法を採用しております。	—————
6. 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲	手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3か月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。	—————

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更】

前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
————— —————	<p>(資産除去債務に関する会計基準の適用)</p> <p>当連結会計年度より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。</p> <p>これによる営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益に与える影響はありません。</p> <p>(収益の計上基準の変更)</p> <p>当社グループは、これまで当社グループが製造する検査計測装置の収益の計上基準を国内売上高については客先搬入基準、海外輸出売上高については船積基準としておりましたが、当連結会計年度より、検収基準に変更しております。</p> <p>この変更は、検査計測装置の大型化、高度化等が進み、搬入から検収までの期間が長期化する傾向にあることから、収益の計上基準をより客観性、確実性のある基準とするために行うものであります。</p> <p>この変更に伴い、従来と同一の基準によった場合と比較し、当連結会計年度の売上高が2,666,877千円、営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益がそれぞれ632,607千円減少しております。なお、セグメント情報に与える影響は当該箇所に記載しております。</p>

【表示方法の変更】

<p>前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)</p>	<p>当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)</p>
<p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p>	<p>(連結貸借対照表)</p> <p>前連結連結会計年度において、流動負債の「その他」に含めて表示しておりました「前受金」は、当連結会計年度において、負債及び純資産の合計額の100分の5を超えたため区分掲記しました。</p> <p>なお、前連結会計年度末の流動負債の「その他」に含まれる「前受金」は23,162千円であります。</p> <p>(連結損益計算書)</p> <p>当連結会計年度より、「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成20年12月26日)に基づき、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成21年3月24日内閣府令第5号)を適用し、「少数株主損益調整前当期純利益」の科目で表示しております。</p> <p>(連結キャッシュ・フロー計算書)</p> <p>前連結会計年度において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他の負債の増減額(△は減少)」に含めて表示しておりました「前受金の増減額(△は減少)」は金額的重要性が増加したため、当連結会計年度では区分掲記することとしました。なお、前連結会計年度の「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他の負債の増減額(△は減少)」に含まれる「前受金の増減額(△は減少)」は△33,587千円であります。</p>

【追加情報】

<p>前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)</p>	<p>当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)</p>
<p>_____</p>	<p>当連結会計年度より、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用しております。ただし、「その他の包括利益累計額」及び「その他の包括利益累計額合計」の前連結会計年度の金額は、「評価・換算差額等」及び「評価・換算差額等合計」の金額を記載しております。</p>

【注記事項】

(連結貸借対照表関係)

前連結会計年度 (平成22年3月31日現在)	当連結会計年度 (平成23年3月31日現在)
<p>※1 関連会社に対するものは次のとおりであります。 投資有価証券(株式) 14,900千円</p> <p>2 当社は運転資金の安定的かつ効率的な調達を行うため、取引銀行2行と総額5,500,000千円の当座貸越契約及び貸出コミットメントライン契約を締結しております。なお、これらの契約に基づく当連結会計年度末の借入実行残高はありません。</p>	<p>※1 関連会社に対するものは次のとおりであります。 投資有価証券(株式) 11,900千円</p> <p>2 同左</p>

(連結損益計算書関係)

前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
<p>※1 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。 65,257千円</p> <p>※2 一般管理費に含まれている研究開発費 272,454千円</p> <p>※3 雇用調整助成金による収入であります。</p> <p>※4 経常的に発生する機械及び装置、工具器具及び備品の交換による除却等にかかわる損失であります。</p> <p>※5 投資事業組合投資損失2,800千円を含んでおります。</p> <p>※6 固定資産売却益の内訳は次のとおりであります。 有形固定資産その他 18千円</p> <p>※7 当社において発生した火災事故に係る保険金受領額から損失額を控除したものであります。</p> <p>※8 固定資産除却損の内訳は次のとおりであります。 有形固定資産その他 31千円</p> <p>—————</p>	<p>※1 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。 41,131千円</p> <p>※2 一般管理費に含まれている研究開発費 328,924千円</p> <p>※3 同左</p> <p>※4 同左</p> <p>—————</p> <p>※6 固定資産売却益の内訳は次のとおりであります。 機械装置及び運搬具 205千円 有形固定資産その他 1,799 計 2,005</p> <p>—————</p> <p>※8 固定資産除却損の内訳は次のとおりであります。 機械装置及び運搬具 5,806千円 土壌汚染処理費用 17,619 計 23,425</p> <p>※9 固定資産売却損の内訳は次のとおりであります。 建物及び構築物 29千円</p>

(連結包括利益計算書関係)

当連結会計年度(自平成22年4月1日至平成23年3月31日)

※1 当連結会計年度の直前連結会計年度における包括利益	
親会社株主に係る包括利益	△797,654千円
少数株主に係る包括利益	—
計	△797,654

※2 当連結会計年度の直前連結会計年度におけるその他の包括利益

その他有価証券評価差額金	19,834千円
為替換算調整勘定	3,195
計	23,029

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自平成21年4月1日至平成22年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前連結会計年度末 株式数(株)	当連結会計年度増 加株式数(株)	当連結会計年度減 少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	15,721,000	—	—	15,721,000
合計	15,721,000	—	—	15,721,000
自己株式				
普通株式	524,620	—	—	524,620
合計	524,620	—	—	524,620

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当 額(円)	基準日	効力発生日
平成21年5月22日 取締役会	普通株式	75,981	5	平成21年3月31日	平成21年6月8日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日
平成22年5月21日 取締役会	普通株式	75,981	利益剰余金	5	平成22年3月31日	平成22年6月9日

当連結会計年度（自平成22年4月1日 至平成23年3月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前連結会計年度末 株式数（株）	当連結会計年度増 加株式数（株）	当連結会計年度減 少株式数（株）	当連結会計年度末 株式数（株）
発行済株式				
普通株式	15,721,000	—	—	15,721,000
合計	15,721,000	—	—	15,721,000
自己株式				
普通株式（注）	524,620	40	—	524,660
合計	524,620	40	—	524,660

（注）普通株式の自己株式の株式数の増加40株は、単元未満株式の買取りによるものであります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （千円）	1株当たり配当 額（円）	基準日	効力発生日
平成22年5月21日 取締役会	普通株式	75,981	5	平成22年3月31日	平成22年6月9日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （千円）	配当の原資	1株当たり配 当額（円）	基準日	効力発生日
平成23年5月20日 取締役会	普通株式	121,570	利益剰余金	8	平成23年3月31日	平成23年6月9日

（連結キャッシュ・フロー計算書関係）

前連結会計年度 （自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日）		当連結会計年度 （自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）	
※1	現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係	※1	現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係
	現金及び預金勘定		現金及び預金勘定
	7,670,749千円		10,307,165千円
	預入期間が3か月を超える定期預金		預入期間が3か月を超える定期預金
	△630,000		△700,000
	現金及び現金同等物		現金及び現金同等物
	7,040,749		9,607,165

(リース取引関係)

前連結会計年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月 31日)																																								
ファイナンス・リース取引 所有権移転外ファイナンス・リース取引 ① リース資産の内容 (ア) 有形固定資産 主として、OEM事業における工場生産設備、車両、通信設備等(機械装置及び運搬具、有形固定資産その他)であります。 (イ) 無形固定資産 その他の事業におけるソフトウェアであります。 ② リース資産の減価償却の方法 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計処理基準に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。 なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。 (1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額	ファイナンス・リース取引 所有権移転外ファイナンス・リース取引 ① リース資産の内容 (ア) 有形固定資産 主として、住生活関連機器事業における工場生産設備、車両、通信設備等(機械装置及び運搬具、有形固定資産その他)であります。 (イ) 無形固定資産 その他の事業(機械・工具等の販売に係る事業)におけるソフトウェアであります。 ② リース資産の減価償却の方法 同左 (1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額																																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>取得価額相当額 (千円)</th> <th>減価償却累計額相当額 (千円)</th> <th>期末残高相当額 (千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>機械装置及び運搬具</td> <td>220,315</td> <td>127,688</td> <td>92,627</td> </tr> <tr> <td>有形固定資産その他</td> <td>22,869</td> <td>18,861</td> <td>4,007</td> </tr> <tr> <td>無形固定資産</td> <td>32,132</td> <td>17,153</td> <td>14,978</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>275,317</td> <td>163,703</td> <td>111,614</td> </tr> </tbody> </table>		取得価額相当額 (千円)	減価償却累計額相当額 (千円)	期末残高相当額 (千円)	機械装置及び運搬具	220,315	127,688	92,627	有形固定資産その他	22,869	18,861	4,007	無形固定資産	32,132	17,153	14,978	合計	275,317	163,703	111,614	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>取得価額相当額 (千円)</th> <th>減価償却累計額相当額 (千円)</th> <th>期末残高相当額 (千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>機械装置及び運搬具</td> <td>193,625</td> <td>134,659</td> <td>58,966</td> </tr> <tr> <td>有形固定資産その他</td> <td>17,869</td> <td>16,337</td> <td>1,531</td> </tr> <tr> <td>無形固定資産</td> <td>32,132</td> <td>23,580</td> <td>8,552</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>243,627</td> <td>174,576</td> <td>69,050</td> </tr> </tbody> </table>		取得価額相当額 (千円)	減価償却累計額相当額 (千円)	期末残高相当額 (千円)	機械装置及び運搬具	193,625	134,659	58,966	有形固定資産その他	17,869	16,337	1,531	無形固定資産	32,132	23,580	8,552	合計	243,627	174,576	69,050
	取得価額相当額 (千円)	減価償却累計額相当額 (千円)	期末残高相当額 (千円)																																						
機械装置及び運搬具	220,315	127,688	92,627																																						
有形固定資産その他	22,869	18,861	4,007																																						
無形固定資産	32,132	17,153	14,978																																						
合計	275,317	163,703	111,614																																						
	取得価額相当額 (千円)	減価償却累計額相当額 (千円)	期末残高相当額 (千円)																																						
機械装置及び運搬具	193,625	134,659	58,966																																						
有形固定資産その他	17,869	16,337	1,531																																						
無形固定資産	32,132	23,580	8,552																																						
合計	243,627	174,576	69,050																																						
(2) 未経過リース料期末残高相当額 <table style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 80%;">1年内</td> <td style="text-align: right;">42,789千円</td> </tr> <tr> <td>1年超</td> <td style="text-align: right;">72,728</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td style="text-align: right;">115,517</td> </tr> </table>	1年内	42,789千円	1年超	72,728	合計	115,517	(2) 未経過リース料期末残高相当額 <table style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 80%;">1年内</td> <td style="text-align: right;">34,208千円</td> </tr> <tr> <td>1年超</td> <td style="text-align: right;">37,594</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td style="text-align: right;">71,802</td> </tr> </table>	1年内	34,208千円	1年超	37,594	合計	71,802																												
1年内	42,789千円																																								
1年超	72,728																																								
合計	115,517																																								
1年内	34,208千円																																								
1年超	37,594																																								
合計	71,802																																								
(3) 支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額 <table style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 80%;">支払リース料</td> <td style="text-align: right;">47,794千円</td> </tr> <tr> <td>減価償却費相当額</td> <td style="text-align: right;">43,938</td> </tr> <tr> <td>支払利息相当額</td> <td style="text-align: right;">3,763</td> </tr> </table>	支払リース料	47,794千円	減価償却費相当額	43,938	支払利息相当額	3,763	(3) 支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額 <table style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 80%;">支払リース料</td> <td style="text-align: right;">45,129千円</td> </tr> <tr> <td>減価償却費相当額</td> <td style="text-align: right;">41,470</td> </tr> <tr> <td>支払利息相当額</td> <td style="text-align: right;">2,547</td> </tr> </table>	支払リース料	45,129千円	減価償却費相当額	41,470	支払利息相当額	2,547																												
支払リース料	47,794千円																																								
減価償却費相当額	43,938																																								
支払利息相当額	3,763																																								
支払リース料	45,129千円																																								
減価償却費相当額	41,470																																								
支払利息相当額	2,547																																								
(4) 減価償却費相当額の算定方法 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。	(4) 減価償却費相当額の算定方法 同左																																								
(5) 利息相当額の算定方法 リース料総額とリース物件の取得価額相当額との差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっております。	(5) 利息相当額の算定方法 同左																																								
(減損損失について) リース資産に配分された減損損失はありません。	(減損損失について) リース資産に配分された減損損失はありません。																																								

(金融商品関係)

前連結会計年度(自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、当社グループが行う事業の投資計画を含む事業計画に照らして必要な資金を主に自己資金でまかなうとともに、必要に応じて銀行借入により調達しております。余剰の生じた資金については、資産の効率性と安全性を鑑み、比較的安全性の高い金融資産で運用しております。また、一部の余剰資金においては、金利スワップ及び金利オプションが組み込まれた複合金融商品にて運用しておりますが、組込デリバティブのリスクが現物の金融資産に及ぶ可能性がある金融商品を購入しない等、リスクが高く、投機的な取引は行わない方針であります。

また、短期的な運転資金は必要に応じて銀行借入にて調達しております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクにさらされております。また、海外での事業や海外取引先との取引にて生ずる外貨建の営業債権は、為替の変動リスクにさらされております。

有価証券及び投資有価証券は、主に株式、債券及び投資信託であり、このうち株式は主として業務上の関係を有する企業の株式であります。

これらは、市場価格及び金利の変動リスクにさらされております。

営業債務である支払手形及び買掛金、未払法人税等は、そのほとんどが短期間で決済されるものであり、一部外貨建のものについては、為替の変動リスクにさらされております。

また、借入金及びファイナンス・リース取引に係るリース債務は、主に設備投資に係る資金調達を目的としたものであり、償還日は最長で決算日後6年であります。これらの債務については資金調達に係る流動性リスクにさらされております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

①信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

当社は、販売管理規程に従い、営業債権について、各事業部門における営業部門が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。連結子会社についても、当社の販売管理規程に準じた管理を行っております。

デリバティブ取引については、取引相手先を高格付けを有する金融機関に限定しているため信用リスクはほとんどないと認識しております。

②市場リスク(為替や金利等の変動リスク)の管理

当社は、外貨建の営業債権債務について通貨別に定期的な管理を行っておりますが、その金額的重要性が乏しいことより、特段のヘッジは行っておりません。

有価証券及び投資有価証券については、定期的に時価や発行体(取引先企業)の財務状況等を把握し、また、市況や取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

デリバティブ取引の執行・管理については、取引権限及び取引限度等を定めた社内管理規程に従って経理部が決裁権限者の承認を得て行っております。連結子会社においてはデリバティブ取引は行っておりません。

③資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払を実行できなくなるリスク)の管理

当社は、各部署からの報告に基づき担当部署である経理部が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手元流動性の一定水準の維持などにより、流動性リスクを管理しております。連結子会社においても当社に準じた管理を行っております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成22年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（注）2.参照）。

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	7,670,749	7,670,749	—
(2) 受取手形及び売掛金	8,936,067	8,936,067	—
(3) 有価証券及び投資有価証券	3,378,008	3,378,008	—
資産計	19,984,826	19,984,826	—
(1) 支払手形及び買掛金	3,256,958	3,256,958	—
(2) 未払法人税等	27,526	27,526	—
(3) 長期借入金	300,000	300,847	847
(4) リース債務（※1）	19,550	19,653	103
負債計	3,604,035	3,604,985	950

（※1）利息相当額を控除しない方法によっているリース債務19,697千円は含まれておりません。

（注）1. 金融商品の時価の算定方法及び有価証券に関する事項

資 産

（1）現金及び預金、（2）受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

（3）有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっており、債券は取引所の価格又は取引金融機関等から提示された価格によっております。また、投資信託については、公表されている基準価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照下さい。

負 債

（1）支払手形及び買掛金、（2）未払法人税等

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

（3）長期借入金、（4）リース債務

これらの時価は、元利金の合計額を、同様の新規借入又はリース取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区分	連結貸借対照表計上額 (千円)
非上場株式	82,765
投資事業有限責任組合	1,932

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難であると認められるものであるため、「（3）有価証券及び投資有価証券」には含めておりません。なお、非上場株式には関連会社株式14,900千円が含まれております。

3. 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	7,670,749	—	—	—
受取手形及び売掛金	8,936,067	—	—	—
有価証券及び投資有価証券 その他有価証券のうち満期 があるもの				
(1) 国債・地方債等	—	175,000	1,200,000	—
(2) 社債	100,000	200,000	120,000	—
(3) その他	—	—	—	250,000
合計	16,706,817	375,000	1,320,000	250,000

4. 長期借入金及びリース債務の連結決算日後の返済予定額

連結附属明細表「借入金等明細表」をご参照下さい。

(追加情報)

当連結会計年度より、「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 平成20年3月10日)及び「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第19号 平成20年3月10日)を適用しております。

当連結会計年度（自平成22年4月1日 至平成23年3月31日）

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、当社グループが行う事業の投資計画を含む事業計画に照らして必要な資金を主に自己資金でまかなうとともに、必要に応じて銀行借入により調達しております。余剰の生じた資金については、資産の効率性と安全性を鑑み、比較的安全性の高い金融資産で運用しております。また、一部の余剰資金においては、金利スワップ及び金利オプションが組み込まれた複合金融商品にて運用しておりますが、組込デリバティブのリスクが現物の金融資産に及ぶ可能性がある金融商品を購入しない等、リスクが高く、投機的な取引は行わない方針であります。

また、短期的な運転資金は必要に応じて銀行借入にて調達しております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクにさらされております。また、海外での事業や海外取引先との取引にて生ずる外貨建の営業債権は、為替の変動リスクにさらされております。

有価証券及び投資有価証券は、主に株式、債券及び投資信託であり、このうち株式は主として業務上の関係を有する企業の株式であります。

これらは、市場価格及び金利の変動リスクにさらされております。

営業債務である支払手形及び買掛金、未払法人税等は、そのほとんどが短期間で決済されるものであり、一部外貨建のものについては、為替の変動リスクにさらされております。

また、借入金及びファイナンス・リース取引に係るリース債務は、主に設備投資に係る資金調達を目的としたものであり、償還日は最長で決算日後6年であります。これらの債務については資金調達に係る流動性リスクにさらされております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

①信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社は、販売管理規程に従い、営業債権について、各事業部門における営業部門が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。連結子会社についても、当社の販売管理規程に準じた管理を行っております。

デリバティブ取引については、取引相手先を高格付けを有する金融機関に限定しているため信用リスクはほとんどないと認識しております。

②市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

当社は、外貨建の営業債権債務について通貨別に定期的な管理を行っておりますが、その金額的重要性が乏しいことより、特段のヘッジは行っておりません。

有価証券及び投資有価証券については、定期的に時価や発行体（取引先企業）の財務状況等を把握し、また、市況や取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

デリバティブ取引の執行・管理については、取引権限及び取引限度等を定めた社内管理規程に従って経理部が決裁権限者の承認を得て行っております。連結子会社においてはデリバティブ取引は行っておりません。

③資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払を実行できなくなるリスク）の管理

当社は、各部署からの報告に基づき担当部署である経理部が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手元流動性の一定水準の維持などにより、流動性リスクを管理しております。連結子会社においても当社に準じた管理を行っております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成23年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（注）2.参照）。

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	10,307,165	10,307,165	—
(2) 受取手形及び売掛金	7,504,254	7,504,254	—
(3) 有価証券及び投資有価証券	3,488,060	3,459,585	△28,475
資産計	21,299,479	21,271,004	△28,475
(1) 支払手形及び買掛金	3,674,796	3,674,796	—
(2) 未払法人税等	152,107	152,107	—
(3) 長期借入金（※1）	275,000	275,354	354
(4) リース債務（※2）	16,023	16,113	89
負債計	4,117,927	4,118,370	443

（※1）1年内返済予定長期借入金140,000千円を含めております。

（※2）利息相当額を控除しない方法によっているリース債務44,112千円は含まれておりません。

（注）1. 金融商品の時価の算定方法及び有価証券に関する事項

資 産

（1）現金及び預金、（2）受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

（3）有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっており、債券は取引所の価格又は取引金融機関等から提示された価格によっております。また、投資信託については、公表されている基準価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照下さい。

負 債

（1）支払手形及び買掛金、（2）未払法人税等

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

（3）長期借入金、（4）リース債務

これらの時価は、元利金の合計額を、同様の新規借入又はリース取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区分	連結貸借対照表計上額 (千円)
非上場株式	56,481

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難であると認められるものであるため、「（3）有価証券及び投資有価証券」には含めておりません。なお、非上場株式には関連会社株式11,900千円が含まれております。

3. 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	10,307,165	—	—	—
受取手形及び売掛金	7,504,254	—	—	—
有価証券及び投資有価証券				
満期保有目的の債券				
(1) その他	—	—	—	250,000
その他有価証券のうち満期があるもの				
(1) 国債・地方債等	—	105,000	1,300,000	200,000
(2) 社債	—	—	120,000	—
(3) その他	—	—	—	250,000
合計	17,811,419	105,000	1,420,000	700,000

4. 長期借入金及びリース債務の連結決算日後の返済予定額

連結附属明細表「借入金等明細表」をご参照下さい。

(有価証券関係)

前連結会計年度(平成22年3月31日)

1. その他有価証券

	種類	連結貸借対照表計上額(千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	162,189	73,934	88,255
	(2) 債券			
	① 国債・地方債等	174,388	170,226	4,161
	② 社債	397,688	389,540	8,148
	③ その他	—	—	—
	(3) その他	404,353	403,728	625
	小計	1,138,619	1,037,428	101,191
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	675,425	757,324	△81,898
	(2) 債券			
	① 国債・地方債等	1,186,282	1,206,040	△19,757
	② 社債	30,060	30,206	△146
	③ その他	224,100	250,000	△25,900
	(3) その他	123,520	134,706	△11,186
	小計	2,239,388	2,378,276	△138,887
	合計	3,378,008	3,415,705	△37,696

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額 67,865千円)及び投資事業有限責任組合(連結貸借対照表計上額 1,932千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

2. 当連結会計年度中に売却したその他有価証券(自平成21年4月1日至平成22年3月31日)
該当事項はありません。

当連結会計年度（平成23年3月31日）

1. 満期保有目的の債券

	種類	連結貸借対照表計上額（千円）	時価（千円）	差額（千円）
時価が連結貸借対照表計上額を超えないもの	その他	250,000	221,525	△28,475
	小計	250,000	221,525	△28,475
合計		250,000	221,525	△28,475

2. その他有価証券

	種類	連結貸借対照表計上額（千円）	取得原価（千円）	差額（千円）
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	173,807	83,029	90,778
	(2) 債券			
	① 国債・地方債等	515,037	506,390	8,647
	② 社債	121,494	120,206	1,287
	③ その他	—	—	—
	(3) その他	383,384	382,954	430
	小計	1,193,723	1,092,579	101,144
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	577,742	759,627	△181,885
	(2) 債券			
	① 国債・地方債等	1,087,674	1,097,989	△10,314
	② 社債	—	—	—
	③ その他	239,750	250,000	△10,250
	(3) その他	139,169	154,037	△14,868
	小計	2,044,336	2,261,653	△217,317
合計		3,238,060	3,354,233	△116,173

（注）非上場株式（連結貸借対照表計上額 44,581千円）については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

3. 当連結会計年度中に売却したその他有価証券（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

種類	売却額（千円）	売却益の合計額（千円）	売却損の合計額（千円）
(1) 株式	—	—	—
(2) 債券			
① 国債・地方債等	72,051	2,175	—
② 社債	305,007	5,900	—
③ その他	—	—	—
(3) その他	—	—	—
合計	377,059	8,076	—

4. 減損処理を行った有価証券

当連結会計年度において、有価証券について26,047千円（うち、その他有価証券の非上場株式23,047千円、関連会社株式2,999千円）の減損処理を行っております。

なお、減損処理にあたっては、期末における実質価額が取得原価に比べて50%以下となった場合に時価が「著しく下落した」と判断し、将来、時価が回復する見込みがないものとみなして減損処理を行うこととしております。

（デリバティブ取引関係）

前連結会計年度（自平成21年4月1日 至平成22年3月31日）

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

組込デリバティブを区分して処理する必要のない複合金融商品については、組込デリバティブを組込対象である金融資産と区分せず一体として、時価評価あるいは発生主義による期間損益計算を行っております。

なお、当期におきましては組込デリバティブを区分して処理する必要のない複合金融商品以外のデリバティブ取引については該当事項はありません。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

該当事項はありません。

当連結会計年度（自平成22年4月1日 至平成23年3月31日）

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

組込デリバティブを区分して処理する必要のない複合金融商品については、組込デリバティブを組込対象である金融資産と区分せず一体として、時価評価あるいは発生主義による期間損益計算を行っております。

なお、当期におきましては組込デリバティブを区分して処理する必要のない複合金融商品以外のデリバティブ取引については該当事項はありません。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

該当事項はありません。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社および連結子会社の一部は、従来より確定給付型の制度として、退職一時金制度、適格退職年金制度（勤続年数20年以上かつ満58才以上の定年退職者を対象）および厚生年金基金制度（総合設立型）を設けておりましたが、平成19年1月より適格退職年金制度について確定拠出年金制度へ移行いたしました。なお、国内連結子会社1社は、中小企業退職金共済制度へ加入しております。

2. 退職給付債務に関する事項

	前連結会計年度 (平成22年3月31日)	当連結会計年度 (平成23年3月31日)												
(1) 退職給付債務 (千円)	△360,576	△415,180												
(2) 年金資産 (千円)	8,482	9,802												
(3) 未積立退職給付債務 (千円)	△352,094	△405,378												
(4) 未認識数理計算上の差異 (千円)	7,411	47,548												
(5) 未認識過去勤務債務 (千円)	△92,937	△41,913												
(6) 退職給付引当金 (千円)	△437,620	△399,743												
	<p>なお、要拠出額を退職給付費用として処理している複数事業主制度に関する事項は次の通りであります。</p> <p>(1) 制度全体の積立状況に関する事項（平成21年3月31日現在）</p> <table> <tr> <td>年金資産の額</td> <td>48,015,685千円</td> </tr> <tr> <td>年金財政計算上の給付債務の額</td> <td>68,206,865</td> </tr> <tr> <td>差引額</td> <td>△20,191,179</td> </tr> </table> <p>(2) 制度全体に占める当社グループの掛金拠出割合（平成21年3月分の拠出額）</p> <p>4.81%</p> <p>(3) 補足説明</p> <p>上記(1)の差引額の主な要因は年金財政計算上の過去勤務債務残高12,043,711千円及び繰越不足金8,147,468千円であります。</p> <p>本制度における過去勤務債務の償却方法は20年の元利均等償却であります。</p>	年金資産の額	48,015,685千円	年金財政計算上の給付債務の額	68,206,865	差引額	△20,191,179	<p>なお、要拠出額を退職給付費用として処理している複数事業主制度に関する事項は次の通りであります。</p> <p>(1) 制度全体の積立状況に関する事項（平成22年3月31日現在）</p> <table> <tr> <td>年金資産の額</td> <td>52,435,416千円</td> </tr> <tr> <td>年金財政計算上の給付債務の額</td> <td>61,882,610</td> </tr> <tr> <td>差引額</td> <td>△9,447,193</td> </tr> </table> <p>(2) 制度全体に占める当社グループの掛金拠出割合（平成22年3月分の拠出額）</p> <p>5.03%</p> <p>(3) 補足説明</p> <p>上記(1)の差引額の主な要因は年金財政計算上の過去勤務債務残高9,955,664千円及び剰余金508,470千円であります。</p> <p>本制度における過去勤務債務の償却方法は20年の元利均等償却であります。</p>	年金資産の額	52,435,416千円	年金財政計算上の給付債務の額	61,882,610	差引額	△9,447,193
年金資産の額	48,015,685千円													
年金財政計算上の給付債務の額	68,206,865													
差引額	△20,191,179													
年金資産の額	52,435,416千円													
年金財政計算上の給付債務の額	61,882,610													
差引額	△9,447,193													

3. 退職給付費用に関する事項

	前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
退職給付費用	186,385	189,102
(1) 勤務費用 (千円)	25,597	23,834
(2) 利息費用 (千円)	6,330	5,610
(3) 数理計算上の差異処理額 (千円)	4,316	517
(4) 過去勤務債務の費用処理額 (千円)	△51,024	△51,024
(5) 厚生年金基金掛金 (千円)	125,242	131,924
(6) 確定拠出年金掛金等 (千円)	75,922	78,239

4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

	前連結会計年度 (平成22年3月31日)	当連結会計年度 (平成23年3月31日)
(1) 割引率 (%)	1.6	1.6
(2) 退職給付見込額の期間配分方法	期間定額基準	同左
(3) 過去勤務債務の処理年数 (年)	5	5
(4) 数理計算上の差異の処理年数 (年)	5	5

(ストック・オプション等関係)

前連結会計年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成22年3月31日)	当連結会計年度 (平成23年3月31日)
	(千円)	(千円)
繰延税金資産 (流動)		
賞与引当金	66,236	179,450
未払事業税	4,605	17,445
未払社会保険料	8,786	27,394
未実現利益	4,208	15,368
貸倒引当金	602	113
受注損失引当金	54,548	150,644
たな卸資産評価損	130,637	142,921
未払金	—	24,727
未払費用	202,418	94,328
製品補修損失	1,735	—
販売手数料	—	29,360
その他	10,865	14,653
小計	484,645	696,408
評価性引当額	△291,603	△114,652
繰延税金資産 (流動) 合計	193,042	581,756
繰延税金負債 (流動)		
その他有価証券評価差額金	△433	—
繰延税金資産 (流動) の純額	192,608	581,756
繰延税金資産 (固定)		
退職給付引当金	172,513	157,949
役員退職慰労引当金	55,963	58,737
貸倒引当金	90,209	87,763
関係会社株式評価損	—	1,193
みなし配当金	30,859	30,859
減価償却費	48,262	48,535
減損損失	165,813	163,423
投資有価証券評価損	44,480	53,646
繰越欠損金	385,648	28,032
その他有価証券評価差額金	23,192	54,541
その他	5,544	16,279
小計	1,022,487	700,961
評価性引当額	△726,332	△442,579
繰延税金資産 (固定) 合計	296,155	258,381

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成22年3月31日)	当連結会計年度 (平成23年3月31日)
法定実効税率	39.7%	39.7%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	△2.2	2.6
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.8	△0.7
住民税均等割等	△1.7	1.4
外国税額	△1.9	0.1
法人税額の特別控除額	—	△3.3
評価性引当額の増減	△67.9	△61.9
連結子会社の税率差異	△0.5	△0.3
その他	0.2	0.4
税効果会計適用後の法人税等の負担率	<u>△33.5</u>	<u>△22.0</u>

(企業結合等関係)

前連結会計年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

当連結会計年度末 (平成23年3月31日)

該当事項はありません。

(賃貸等不動産関係)

前連結会計年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)

当社は、長野県伊那市その他の地域において、賃貸収益を得ること等を目的として土地を所有しておりますが、重要性が乏しいことから、注記を省略しております。

(追加情報)

当連結会計年度より、「賃貸等不動産の時価等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第20号 平成20年11月28日)及び「賃貸等不動産の時価等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第23号 平成20年11月28日)を適用しております。

当連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)

当社は、長野県伊那市その他の地域において、賃貸収益を得ること等を目的として土地を所有しておりますが、重要性が乏しいことから、注記を省略しております。

(セグメント情報等)

【事業の種類別セグメント情報】

前連結会計年度（自平成21年4月1日 至平成22年3月31日）

	OEM事業 (千円)	エレクトロ ニクス関連 事業 (千円)	その他の事 業 (千円)	計 (千円)	消去又は全 社 (千円)	連結 (千円)
I. 売上高及び営業損益						
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	7,629,158	5,498,161	871,763	13,999,083	—	13,999,083
(2) セグメント間の内部売上 高又は振替高	7,941	230	699,011	707,183	(707,183)	—
計	7,637,100	5,498,391	1,570,774	14,706,266	(707,183)	13,999,083
営業費用	7,630,266	6,356,320	1,552,568	15,539,155	(723,412)	14,815,742
営業利益又は営業損失(△)	6,833	△857,928	18,206	△832,888	16,229	△816,658
II. 資産、減価償却費及び資本 的支出						
資産	8,089,123	10,584,348	1,682,730	20,356,202	10,244,263	30,600,466
減価償却費	333,863	151,433	25,376	510,673	(8,956)	501,716
資本的支出	83,316	53,160	23,029	159,505	(179)	159,326

(注) 1. 事業区分の方法

当社の事業区分は、内部管理上の区分によっております。

2. 各事業区分の主要製品

事業区分	主要製品
OEM事業	鋼製事務用椅子（事務用回転椅子、折畳椅子）、その他椅子等（会議用椅子・テーブル等）、線ばね、板ばね、エクステリア（カーポート、テラス、オーニング）、健康福祉関連機器、他
エレクトロニクス関連事業	電磁アクチュエータ、フラット・パネル・ディスプレイ検査装置、原子間力顕微鏡、他
その他の事業	工作機械、省力化機械、他

3. 前連結会計年度および当連結会計年度における資産のうち消去又は全社の項目に含めた全社資産の金額は9,260,701千円及び10,909,102千円であり、その主なものは当社での余資運用資金（現金預金および有価証券）、長期投資資金（投資有価証券）等であります。

4. 追加情報

前連結会計年度（自平成21年4月1日 至平成22年3月31日）

「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」4. (3) ニに記載のとおり、損失が見込まれる受注契約が発生したため、当該損失見込額を受注損失引当金として計上しております。この結果、当連結会計年度の営業損失が、「エレクトロニクス関連事業」で147,383千円増加しております。

【所在地別セグメント情報】

前連結会計年度（自平成21年4月1日 至平成22年3月31日）

本邦の売上高及び資産の金額は、全セグメントの売上高の合計及び全セグメントの資産の金額の合計額に占める割合がいずれも90%超であるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

【海外売上高】

前連結会計年度（自平成21年4月1日 至平成22年3月31日）

海外売上高は、連結売上高の10%未満であるため、海外売上高の記載を省略しております。

【セグメント情報】

当連結会計年度（自平成22年4月1日 至平成23年3月31日）

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、最高経営意思決定機関である経営会議が経営資源の配分の決定及び業績の評価をするために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、製品・サービス別の事業部門を置き、各事業部門は国内及び海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。そのため、当社グループは当該事業部門を基礎とした製品・サービス別の事業セグメントにより構成されております。

当社グループはこれらの事業セグメントのうち、報告すべきセグメントである「住生活関連機器」、「検査計測機器」、「産業機器」、「エクステリア」の4つを報告セグメントとしております。

「住生活関連機器」は、オフィス用、福祉・医療施設用の椅子等を製造販売しております。「検査計測機器」は、液晶等の検査計測装置等を製造販売しております。「産業機器」は電磁アクチュエータ等を製造販売しております。「エクステリア」は跳ね上げ式門扉、カーポート、テラス、オーニング等を製造販売しております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、連結財務諸表を作成するために採用される会計処理の原則及び手続と同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

なお、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更」に記載のとおり、従来、検査計測機器セグメントにおける検査計測装置の収益の計上基準は、国内売上高については客先搬入基準、海外輸出売上高については船積基準としておりましたが、当連結会計年度より、検収基準に変更しております。この変更に伴い、従来の方によった場合に比べて、「検査計測機器」セグメントの売上高が2,666,877千円、セグメント利益が632,607千円それぞれ減少しております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額に関する情報
前連結会計年度（自平成21年4月1日 至平成22年3月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	住生活関連 機器	検査計測 機器	産業機器	エクステ リア	計		
売上高							
外部顧客への売上高	6,089,738	4,648,674	987,639	630,073	12,356,124	1,642,958	13,999,083
セグメント間の内部売上高又は振替高	2,473	24,338	—	5,467	32,280	364,894	397,175
計	6,092,211	4,673,013	987,639	635,541	12,388,405	2,007,853	14,396,258
セグメント利益又はセグメント損失(△)	87,116	△987,138	134,234	△80,743	△846,532	12,001	△834,531
セグメント資産	5,744,034	10,812,524	979,880	721,802	18,258,241	2,075,887	20,334,129
その他の項目							
減価償却費	299,278	112,538	37,964	13,711	463,493	47,179	510,673
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	78,130	34,998	18,207	4,744	136,080	23,425	159,505

(注) その他の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ユニット（ばね）製品、機械・工具等の販売に係る事業を含んでおります。

当連結会計年度（自平成22年4月1日 至平成23年3月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	住生活関連 機器	検査計測 機器	産業機器	エクステ リア	計		
売上高							
外部顧客への売上高	7,098,599	6,114,445	1,525,312	737,338	15,475,694	1,727,896	17,203,591
セグメント間の内部売上高又は振替高	22,505	13,241	80	16,183	52,010	699,987	751,998
計	7,121,104	6,127,686	1,525,392	753,521	15,527,705	2,427,884	17,955,590
セグメント利益又はセグメント損失(△)	△21,109	481,092	300,612	△107,644	652,951	69,275	722,227
セグメント資産	6,031,928	11,077,249	1,248,511	757,183	19,114,873	2,115,245	21,230,119
その他の項目							
減価償却費	277,305	110,102	37,312	6,933	431,653	43,224	474,878
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	196,184	92,810	40,592	23,087	352,674	24,579	377,254

(注) その他の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ユニット（ばね）製品、機械・工具等の販売に係る事業を含んでおります。

4. 報告セグメント合計額と連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：千円）

売上高	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	12,388,405	15,527,705
「その他」の区分の売上高	2,007,853	2,427,884
セグメント間取引消去	△397,175	△751,998
連結財務諸表の売上高	13,999,083	17,203,591

（単位：千円）

利益又は損失	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	△846,532	652,951
「その他」の区分の利益	12,001	69,275
セグメント間取引消去	17,872	△10,158
連結財務諸表の営業利益又は営業損失（△）	△816,658	712,068

（単位：千円）

資産	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	18,258,241	19,114,873
「その他」の区分の資産	2,075,887	2,115,245
全社資産（注）	10,409,159	13,613,299
その他の調整額	△142,822	△302,653
連結財務諸表の資産合計	30,600,466	34,540,764

（注）全社資産は、主に報告セグメントに帰属しない余資運用資金（現金預金および有価証券）、長期投資資金（投資有価証券）等であります。

（単位：千円）

その他の項目	報告セグメント計		その他		調整額		連結財務諸表計上額	
	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度
減価償却費	463,493	431,653	47,179	43,224	△8,956	△7,964	501,716	466,914
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	136,080	352,674	23,425	24,579	△179	△5,792	159,326	371,461

【関連情報】

当連結会計年度（自平成22年4月1日 至平成23年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

（単位：千円）

	オフィス用 椅子	検査計測 装置	その他	合計
外部顧客への売上高	6,104,870	5,831,387	5,267,334	17,203,591

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

（単位：千円）

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
コクヨファニチャー株式会社	6,063,478	住生活関連機器
LGジャパン株式会社	1,968,000	検査計測機器

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

当連結会計年度（自平成22年4月1日 至平成23年3月31日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

当連結会計年度（自平成22年4月1日 至平成23年3月31日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

当連結会計年度（自平成22年4月1日 至平成23年3月31日）

該当事項はありません。

（追加情報）

当連結会計年度（自平成22年4月1日 至平成23年3月31日）

当連結会計年度より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年3月27日）及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日）を適用しております。

【関連当事者情報】

前連結会計年度（自平成21年4月1日 至平成22年3月31日）

関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

(ア) 連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主（会社等の場合に限る。）等

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の 所有（被所有）割合 (%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
法人主要株主の子会社	コクヨファニチャー株式会社	大阪市東成区	3,000	オフィス家具の製造販売	—	製品の販売	製品の販売	5,367,700	受取手形及び売掛金	2,487,542

(注) 1. 上記の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2. 取引条件および取引条件の決定方法

当社製品の販売については、市場価格にもとづき交渉のうえ決定しております。

当連結会計年度（自平成22年4月1日 至平成23年3月31日）

関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

(ア) 連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主（会社等の場合に限る。）等

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の 所有（被所有）割合 (%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
法人主要株主の子会社	コクヨファニチャー株式会社	大阪市東成区	3,000	オフィス家具の製造販売	—	製品の販売	製品の販売	6,018,354	受取手形及び売掛金	2,790,122

(注) 1. 上記の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2. 取引条件および取引条件の決定方法

当社製品の販売については、市場価格にもとづき交渉のうえ決定しております。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

(ア) 連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主（会社等の場合に限る。）等

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の 所有（被所有）割合 (%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
法人主要株主の子会社	コクヨファニチャー株式会社	大阪市東成区	3,000	オフィス家具の製造販売	—	製品の販売	製品の販売	45,124	—	—

(注) 1. 上記の金額には消費税等が含まれておりません。

2. 取引条件および取引条件の決定方法

当社製品の販売については、市場価格にもとづき交渉のうえ決定しております。

(開示対象特別目的会社関係)

前連結会計年度（自平成21年4月1日 至平成22年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自平成22年4月1日 至平成23年3月31日）

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
1株当たり純資産額 1,668円82銭 1株当たり当期純損失金額 54円01銭 なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、1株当たり当期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載していません。	1株当たり純資産額 1,720円13銭 1株当たり当期純利益金額 59円71銭 なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

(注) 1. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度末 (平成22年3月31日)	当連結会計年度末 (平成23年3月31日)
純資産の部の合計額(千円)	25,359,972	26,139,746
純資産の部の合計額から控除する金額 (千円)	—	—
普通株式に係る期末の純資産額(千円)	25,359,972	26,139,746
1株当たり純資産額の算定に用いられた期 末の普通株式の数(株)	15,196,380	15,196,340

(注) 2. 1株当たり当期純損益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
当期純損益(千円)	△820,683	907,444
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る当期純損益(千円)	△820,683	907,444
期中平均株式数(株)	15,196,380	15,196,348

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

⑤【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	前期末残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	—	—	—	—
1年以内に返済予定の長期借入金	120,000	140,000	1.534	—
1年以内に返済予定のリース債務	8,441	13,926	2.668	—
長期借入金（1年以内に返済予定のものを除く。）	180,000	135,000	1.293	平成24年～27年
リース債務（1年以内に返済予定のものを除く。）	30,805	46,209	2.671	平成25年～29年
その他有利子負債	—	—	—	—
合計	339,247	335,136	—	—

(注) 1. 平均利率は、期末の利率及び残高に基づく加重平均利率であります。なお、リース債務に係る平均利率は、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する方法により算定したリース債務に係る期末の利率及び残高に基づく加重平均利率を記載しております。

2. 長期借入金及びリース債務（1年以内に返済予定のものを除く。）の連結決算日後5年間の返済予定額は次のとおりであります。

	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	80,000	20,000	20,000	15,000
リース債務	14,018	12,562	10,883	5,620

【資産除去債務明細表】

該当事項はありません。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報

	第1四半期 自平成22年4月1日 至平成22年6月30日	第2四半期 自平成22年7月1日 至平成22年9月30日	第3四半期 自平成22年10月1日 至平成22年12月31日	第4四半期 自平成23年1月1日 至平成23年3月31日
売上高(千円)	3,042,233	4,173,610	4,217,410	5,770,337
税金等調整前四半期純利益金額又は税金等調整前四半期純損失金額(△)(千円)	△75,444	408,390	196,465	214,139
四半期純利益金額又は四半期純損失金額(△)(千円)	△133,982	486,243	171,207	383,976
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額(△)(円)	△8.82	32.00	11.27	25.27

2 【財務諸表等】
 (1) 【財務諸表】
 ① 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成22年 3月31日)	当事業年度 (平成23年 3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,678,131	9,315,247
受取手形	268,364	301,399
売掛金	8,386,342	6,903,902
有価証券	150,876	52,250
商品及び製品	270,495	430,081
仕掛品	1,843,668	3,385,393
原材料及び貯蔵品	514,359	694,547
前渡金	26,756	112,793
前払費用	21,333	16,098
繰延税金資産	183,097	546,978
未収入金	98,480	99,687
その他	31,953	18,028
貸倒引当金	△1,478	△287
流動資産合計	18,472,383	21,876,119
固定資産		
有形固定資産		
建物	4,646,665	4,674,126
減価償却累計額	△3,402,388	△3,493,787
建物（純額）	1,244,276	1,180,338
構築物	487,187	490,813
減価償却累計額	△413,563	△412,930
構築物（純額）	73,623	77,883
機械及び装置	4,659,365	4,524,172
減価償却累計額	△3,992,858	△3,949,770
機械及び装置（純額）	666,506	574,401
車両運搬具	36,714	40,453
減価償却累計額	△31,025	△33,830
車両運搬具（純額）	5,688	6,623
工具、器具及び備品	3,111,029	2,966,653
減価償却累計額	△2,927,591	△2,796,800
工具、器具及び備品（純額）	183,438	169,853
土地	4,148,123	4,148,123
リース資産	24,837	55,610
減価償却累計額	△6,078	△13,598
リース資産（純額）	18,759	42,011
建設仮勘定	33,933	51,932
有形固定資産合計	6,374,350	6,251,167
無形固定資産		
借地権	9,814	9,814
意匠出願権	42,202	31,473
ソフトウェア	32,784	39,893
その他	13,332	22,583
無形固定資産合計	98,134	103,765

(単位：千円)

	前事業年度 (平成22年3月31日)	当事業年度 (平成23年3月31日)
投資その他の資産		
投資有価証券	3,294,464	3,477,750
関係会社株式	486,403	462,782
出資金	1,850	1,850
関係会社出資金	22,722	22,722
長期預金	400,000	850,000
従業員に対する長期貸付金	13,031	14,037
破産更生債権等	221,488	215,112
長期前払費用	16,334	12,218
繰延税金資産	275,276	242,489
その他	18,566	17,732
貸倒引当金	△228,424	△222,098
投資その他の資産合計	4,521,711	5,094,597
固定資産合計	10,994,197	11,449,530
資産合計	29,466,580	33,325,650
負債の部		
流動負債		
支払手形	※1 1,401,397	※1 1,829,418
買掛金	※1 1,675,363	※1 1,687,455
1年内返済予定の長期借入金	120,000	140,000
リース債務	4,915	10,309
未払金	240,057	540,674
未払費用	327,203	314,674
未払消費税等	43,033	101,017
未払法人税等	11,408	108,778
前受金	—	1,787,130
預り金	80,647	82,571
賞与引当金	147,284	422,234
役員賞与引当金	—	4,000
受注損失引当金	147,383	378,818
設備関係支払手形	5,831	12,816
その他	11,129	13
流動負債合計	4,215,655	7,419,912
固定負債		
長期借入金	180,000	135,000
リース債務	14,781	33,802
退職給付引当金	419,691	381,685
役員退職慰労引当金	128,000	138,200
固定負債合計	742,472	688,687
負債合計	4,958,128	8,108,600

(単位：千円)

	前事業年度 (平成22年3月31日)	当事業年度 (平成23年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,015,900	2,015,900
資本剰余金		
資本準備金	2,157,140	2,157,140
その他資本剰余金	198,277	198,277
資本剰余金合計	2,355,417	2,355,417
利益剰余金		
利益準備金	503,975	503,975
その他利益剰余金		
退職手当積立金	156,600	156,600
別途積立金	20,000,000	19,500,000
繰越利益剰余金	△236,502	1,018,838
利益剰余金合計	20,424,072	21,179,413
自己株式	△272,366	△272,388
株主資本合計	24,523,023	25,278,342
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△14,571	△61,292
評価・換算差額等合計	△14,571	△61,292
純資産合計	24,508,451	25,217,049
負債純資産合計	29,466,580	33,325,650

②【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
売上高	13,077,661	16,102,199
売上原価		
製品期首たな卸高	444,400	270,495
当期製品製造原価	11,938,481	13,365,607
合計	12,382,881	13,636,103
製品期末たな卸高	270,495	430,081
製品売上原価	※1 12,112,385	※1 13,206,021
売上総利益	965,276	2,896,177
販売費及び一般管理費		
発送費	157,401	109,965
広告宣伝費	74,816	98,882
販売手数料	57,127	233,403
役員報酬	107,100	102,868
給料及び手当	441,733	477,694
旅費及び交通費	139,666	154,472
賞与引当金繰入額	27,196	78,997
役員賞与引当金繰入額	—	4,000
退職給付費用	32,361	32,601
役員退職慰労引当金繰入額	10,000	10,200
減価償却費	56,852	59,098
研究開発費	※2 272,454	※2 328,924
支払手数料	145,595	221,889
その他	307,269	356,351
販売費及び一般管理費合計	1,829,575	2,269,350
営業利益又は営業損失(△)	△864,299	626,826
営業外収益		
受取利息	※3 13,483	13,748
有価証券利息	18,033	23,357
受取配当金	※3 20,934	※3 22,750
固定資産賃貸料	5,693	5,090
助成金収入	※4 80,949	※4 24,038
雑収入	31,253	22,986
営業外収益合計	170,347	111,972
営業外費用		
支払利息	5,814	4,108
固定資産除売却損	※5 12,628	※5 11,863
為替差損	3,860	18,472
コミットメントフィー	6,442	10,482
雑損失	※6 9,440	4,256
営業外費用合計	38,185	49,183
経常利益又は経常損失(△)	△732,137	689,615

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
特別利益		
固定資産売却益	※7 18	※7 2,003
投資有価証券売却益	—	8,076
貸倒引当金戻入額	82,352	6,753
保険差益	※8 20,214	—
特別利益合計	102,585	16,833
特別損失		
固定資産除却損	—	※9 23,425
関係会社株式評価損	—	23,620
投資有価証券評価損	—	23,004
関係会社整理損	37,552	—
特別損失合計	37,552	70,050
税引前当期純利益又は税引前当期純損失 (△)	△667,104	636,398
法人税、住民税及び事業税	22,017	104,369
法人税等調整額	162,627	△299,293
法人税等合計	184,645	△194,924
当期純利益又は当期純損失 (△)	△851,749	831,323

【製造原価明細書】

		前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)		当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	
区分	注記 番号	金額 (千円)	構成比 (%)	金額 (千円)	構成比 (%)
I 材料費		4,974,639	40.9	6,617,463	44.1
II 労務費		2,337,361	19.2	2,658,635	17.7
III 経費	※2	4,856,263	39.9	5,731,866	38.2
当期総製造費用		12,168,264	100.0	15,007,965	100.0
期首仕掛品棚卸高		1,673,867		1,843,668	
合計		13,842,132		16,851,634	
他勘定振替高	※3	59,982		100,633	
期末仕掛品棚卸高		1,843,668		3,385,393	
当期製品製造原価		11,938,481		13,365,607	

(注)

前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)		当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	
1. 原価計算の方法 総合原価計算によっております。 なお、画像処理検査装置については個別原価計算を採用しております。		1. 原価計算の方法 総合原価計算によっております。 なお、検査計測装置については個別原価計算を採用しております。	
※2. 経費の主な内訳は次のとおりであります。 外注加工費 3,144,644千円 減価償却費 410,674		※2. 経費の主な内訳は次のとおりであります。 外注加工費 3,553,156千円 減価償却費 372,606	
※3. 他勘定振替高の内訳は次のとおりであります。 機械及び装置 28,738千円 工具、器具及び備品 25,328 その他 5,915 計 59,982		※3. 他勘定振替高の内訳は次のとおりであります。 機械及び装置 46,542千円 工具、器具及び備品 51,753 その他 2,337 計 100,633	

③【株主資本等変動計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
株主資本		
資本金		
前期末残高	2,015,900	2,015,900
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	2,015,900	2,015,900
資本剰余金		
資本準備金		
前期末残高	2,157,140	2,157,140
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	2,157,140	2,157,140
その他資本剰余金		
前期末残高	198,277	198,277
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	198,277	198,277
資本剰余金合計		
前期末残高	2,355,417	2,355,417
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	2,355,417	2,355,417
利益剰余金		
利益準備金		
前期末残高	503,975	503,975
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	503,975	503,975
その他利益剰余金		
退職手当積立金		
前期末残高	156,600	156,600
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	156,600	156,600
別途積立金		
前期末残高	20,650,000	20,000,000
当期変動額		
別途積立金の取崩	△650,000	△500,000
当期変動額合計	△650,000	△500,000
当期末残高	20,000,000	19,500,000

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
繰越利益剰余金		
前期末残高	41,228	△236,502
当期変動額		
剰余金の配当	△75,981	△75,981
別途積立金の取崩	650,000	500,000
当期純利益又は当期純損失(△)	△851,749	831,323
当期変動額合計	△277,731	1,255,341
当期末残高	△236,502	1,018,838
利益剰余金合計		
前期末残高	21,351,803	20,424,072
当期変動額		
剰余金の配当	△75,981	△75,981
別途積立金の取崩	—	—
当期純利益又は当期純損失(△)	△851,749	831,323
当期変動額合計	△927,731	755,341
当期末残高	20,424,072	21,179,413
自己株式		
前期末残高	△272,366	△272,366
当期変動額		
自己株式の取得	—	△21
当期変動額合計	—	△21
当期末残高	△272,366	△272,388
株主資本合計		
前期末残高	25,450,754	24,523,023
当期変動額		
剰余金の配当	△75,981	△75,981
当期純利益又は当期純損失(△)	△851,749	831,323
自己株式の取得	—	△21
当期変動額合計	△927,731	755,319
当期末残高	24,523,023	25,278,342

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
前期末残高	△34,359	△14,571
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	19,787	△46,720
当期変動額合計	19,787	△46,720
当期末残高	△14,571	△61,292
評価・換算差額等合計		
前期末残高	△34,359	△14,571
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	19,787	△46,720
当期変動額合計	19,787	△46,720
当期末残高	△14,571	△61,292
純資産合計		
前期末残高	25,416,394	24,508,451
当期変動額		
剰余金の配当	△75,981	△75,981
当期純利益又は当期純損失（△）	△851,749	831,323
自己株式の取得	—	△21
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	19,787	△46,720
当期変動額合計	△907,943	708,598
当期末残高	24,508,451	25,217,049

【重要な会計方針】

項目	前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>(1) _____</p> <p>(2) 子会社株式及び関連会社株式 移動平均法による原価法</p> <p>(3) その他有価証券 時価のあるもの 決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定） 時価のないもの 移動平均法による原価法</p>	<p>(1) 満期保有目的の債券 償却原価法（定額法）</p> <p>(2) 子会社株式及び関連会社株式 同左</p> <p>(3) その他有価証券 時価のあるもの 同左 時価のないもの 同左</p>
2. たな卸資産の評価基準及び評価方法	<p>(1) 商品及び製品、仕掛品、原材料 総平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法） なお、画像処理検査装置に係る製品、仕掛品については個別法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）</p> <p>(2) 貯蔵品 最終仕入原価法による原価法</p>	<p>(1) 商品及び製品、仕掛品、原材料 総平均法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法） なお、検査計測装置に係る製品、仕掛品については個別法による原価法（貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）</p> <p>(2) 貯蔵品 同左</p>
3. 固定資産の減価償却の方法	<p>(1) 有形固定資産（リース資産を除く） 定率法 なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。 建物 15年・31年～50年 構築物 7年～50年 機械及び装置 7年～13年 車両運搬具 4年～6年 工具、器具及び備品 2年～10年</p> <p>(2) 無形固定資産（リース資産を除く） 定額法 なお、主な償却期間は以下のとおりであります。 意匠出願権 7年 ソフトウェア（自社利用） 社内における見込利用可能期間（5年）</p> <p>(3) リース資産 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。 なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。</p>	<p>(1) 有形固定資産（リース資産を除く） 同左</p> <p>(2) 無形固定資産（リース資産を除く） 同左</p> <p>(3) リース資産 同左</p>

項目	前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
4. 引当金の計上基準	<p>(1) 貸倒引当金 債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。</p> <p>(2) 賞与引当金 従業員の賞与の支給に充てるため、支給見込額を計上しております。</p> <p>(3) 役員賞与引当金 役員賞与の支出に備えるため、当事業年度における支給見込額に基づき計上しております。なお、当事業年度末においては、支給見込額が零のため計上しておりません。</p> <p>(4) 受注損失引当金 受注契約に係る将来の損失に備えるため、当事業年度末時点で将来の損失が確実に見込まれ、かつ、その金額を合理的に見積もることが可能なものについて、将来の損失見込額を計上しております。</p> <p>(追加情報) 当事業年度において損失が見込まれる受注契約が発生したため、当該損失見込額を受注損失引当金として計上しております。 なお、これにより、営業損失、経常損失、税引前当期純損失はそれぞれ147,383千円増加しております。</p>	<p>(1) 貸倒引当金 同左</p> <p>(2) 賞与引当金 同左</p> <p>(3) 役員賞与引当金 役員賞与の支出に備えるため、当事業年度における支給見込額に基づき計上しております。</p> <p>(4) 受注損失引当金 受注契約に係る将来の損失に備えるため、当事業年度末時点で将来の損失が確実に見込まれ、かつ、その金額を合理的に見積もることが可能なものについて、将来の損失見込額を計上しております。</p>

項目	前事業年度 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)	当事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)
	<p>(5) 退職給付引当金</p> <p>従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。</p> <p>過去勤務債務は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(5年)による定額法により費用処理しております。</p> <p>数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(5年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生翌事業年度から費用処理しております。</p> <p>(会計方針の変更)</p> <p>当事業年度より、「「退職給付に係る会計基準」の一部改正(その3)」(企業会計基準第19号 平成20年7月31日)を適用しております。</p> <p>数理計算上の差異を翌事業年度から償却するため、これによる営業損失、経常損失及び税引前当期純損失に与える影響はありません。</p> <p>また、本会計基準の適用に伴い発生する退職給付債務の差額の未処理残高はありません。</p> <p>(6) 役員退職慰労引当金</p> <p>役員の退職慰労金の支給に充てるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。</p>	<p>(5) 退職給付引当金</p> <p>従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。</p> <p>過去勤務債務は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(5年)による定額法により費用処理しております。</p> <p>数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数(5年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生翌事業年度から費用処理しております。</p> <p>(6) 役員退職慰労引当金 同左</p>
5. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	消費税等の会計処理 税抜方式によっております。	消費税等の会計処理 同左

【会計処理方法の変更】

<p>前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)</p>	<p>当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)</p>
	<p>(資産除去債務に関する会計基準の適用)</p> <p>当事業年度より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。</p> <p>これによる営業利益、経常利益及び税引前当期純利益に与える影響はありません。</p> <p>(収益の計上基準の変更)</p> <p>当社は、これまで当社が製造する検査計測装置の収益の計上基準を国内売上高については客先搬入基準、海外輸出売上高については船積基準としておりましたが、当事業年度より、検収基準に変更しております。</p> <p>この変更は、検査計測装置の大型化、高度化等が進み、搬入から検収までの期間が長期化する傾向にあることから、収益の計上基準をより客観性、確実性のある基準とするために行うものであります。</p> <p>この変更に伴い、従来と同一の基準によった場合と比較し、当事業年度の売上高が2,666,877千円、営業利益、経常利益及び税引前当期純利益がそれぞれ632,607千円減少しております。</p>

【表示方法の変更】

<p>前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)</p>	<p>当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)</p>
	<p>(貸借対照表)</p> <p>前事業年度において流動負債の「その他」に含めて表示しておりました「前受金」は、当事業年度において、負債及び純資産の合計額の100分の1を超えたため区分掲記しました。なお、前事業年度末の流動負債の「その他」に含まれる「前受金」は11,123千円であります。</p>

【注記事項】

(貸借対照表関係)

前事業年度 (平成22年3月31日)	当事業年度 (平成23年3月31日)								
<p>※1 関係会社に対するものが次のとおり含まれております。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">支払手形</td> <td style="text-align: right;">21,293千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">買掛金</td> <td style="text-align: right;">143,415</td> </tr> </table> <p>2 当社は運転資金の安定的かつ効率的な調達を行うため、取引銀行2行と総額5,500,000千円の当座貸越契約及び貸出コミットメントライン契約を締結しております。なお、これらの契約に基づく当事業年度末の借入実行残高はありません。</p>	支払手形	21,293千円	買掛金	143,415	<p>※1 関係会社に対するものが次のとおり含まれております。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">支払手形</td> <td style="text-align: right;">27,987千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">買掛金</td> <td style="text-align: right;">263,572</td> </tr> </table> <p>2 同左</p>	支払手形	27,987千円	買掛金	263,572
支払手形	21,293千円								
買掛金	143,415								
支払手形	27,987千円								
買掛金	263,572								

(損益計算書関係)

前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)								
<p>※1 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;"></td> <td style="text-align: right;">65,429千円</td> </tr> </table>		65,429千円	<p>※1 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;"></td> <td style="text-align: right;">41,968千円</td> </tr> </table>		41,968千円				
	65,429千円								
	41,968千円								
<p>※2 一般管理費に含まれている研究開発費</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;"></td> <td style="text-align: right;">272,454千円</td> </tr> </table>		272,454千円	<p>※2 一般管理費に含まれている研究開発費</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;"></td> <td style="text-align: right;">328,924千円</td> </tr> </table>		328,924千円				
	272,454千円								
	328,924千円								
<p>※3 関係会社との取引にかかわるものが次のとおり含まれております。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">受取利息</td> <td style="text-align: right;">523千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">受取配当金</td> <td style="text-align: right;">3,720千円</td> </tr> </table>	受取利息	523千円	受取配当金	3,720千円	<p>※3 関係会社との取引にかかわるものが次のとおり含まれております。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">受取配当金</td> <td style="text-align: right;">3,720千円</td> </tr> </table>	受取配当金	3,720千円		
受取利息	523千円								
受取配当金	3,720千円								
受取配当金	3,720千円								
<p>※4 雇用調整助成金による収入であります。</p>	<p>※4 同左</p>								
<p>※5 経常的に発生する機械及び装置、工具器具及び備品の交換による除却等にかかわる損失であります。</p>	<p>※5 同左</p>								
<p>※6 投資事業組合損失2,800千円を含んでおります。</p>									
<p>※7 固定資産売却益の内訳は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">工具、器具及び備品</td> <td style="text-align: right;">18千円</td> </tr> </table>	工具、器具及び備品	18千円	<p>※7 固定資産売却益の内訳は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">工具、器具及び備品</td> <td style="text-align: right;">1,797千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">機械及び装置</td> <td style="text-align: right;">205千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">2,003千円</td> </tr> </table>	工具、器具及び備品	1,797千円	機械及び装置	205千円	計	2,003千円
工具、器具及び備品	18千円								
工具、器具及び備品	1,797千円								
機械及び装置	205千円								
計	2,003千円								
<p>※8 当社において発生した火災事故に係る保険金受領額から損失額を控除したものであります。</p>									
	<p>※9 固定資産除却損の内訳は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">機械及び装置</td> <td style="text-align: right;">5,806千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">土壌汚染処理費用</td> <td style="text-align: right;">17,619千円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">計</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">23,425千円</td> </tr> </table>	機械及び装置	5,806千円	土壌汚染処理費用	17,619千円	計	23,425千円		
機械及び装置	5,806千円								
土壌汚染処理費用	17,619千円								
計	23,425千円								

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前事業年度末株式数 (株)	当事業年度増加株式数 (株)	当事業年度減少株式数 (株)	当事業年度末株式数 (株)
普通株式	524,620	—	—	524,620
合計	524,620	—	—	524,620

当事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前事業年度末株式数 (株)	当事業年度増加株式数 (株)	当事業年度減少株式数 (株)	当事業年度末株式数 (株)
普通株式 (注)	524,620	40	—	524,660
合計	524,620	40	—	524,660

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加40株は、単元未満株式の買取によるものであります。

(リース取引関係)

前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)																																																
ファイナンス・リース取引 所有権移転外ファイナンス・リース取引 ① リース資産の内容 主として、OEM事業における工場生産設備、車両、通信設備等(機械及び装置、車両運搬具、工具、器具及び備品)であります。 ② リース資産の減価償却の方法 重要な会計方針「3. 固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。 なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。 (1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額	ファイナンス・リース取引 所有権移転外ファイナンス・リース取引 ① リース資産の内容 主として、住生活関連機器事業における工場生産設備、車両、通信設備等(機械及び装置、車両運搬具、工具、器具及び備品)であります。 ② リース資産の減価償却の方法 同左 (1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額																																																
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>取得価額相当額 (千円)</th> <th>減価償却累計額相当額 (千円)</th> <th>期末残高相当額 (千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>機械及び装置</td> <td>145,586</td> <td>95,613</td> <td>49,972</td> </tr> <tr> <td>車両運搬具</td> <td>9,174</td> <td>5,121</td> <td>4,052</td> </tr> <tr> <td>工具、器具及び備品</td> <td>12,169</td> <td>8,398</td> <td>3,770</td> </tr> <tr> <td>ソフトウェア</td> <td>32,132</td> <td>17,153</td> <td>14,978</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>199,061</td> <td>126,287</td> <td>72,774</td> </tr> </tbody> </table>		取得価額相当額 (千円)	減価償却累計額相当額 (千円)	期末残高相当額 (千円)	機械及び装置	145,586	95,613	49,972	車両運搬具	9,174	5,121	4,052	工具、器具及び備品	12,169	8,398	3,770	ソフトウェア	32,132	17,153	14,978	合計	199,061	126,287	72,774	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>取得価額相当額 (千円)</th> <th>減価償却累計額相当額 (千円)</th> <th>期末残高相当額 (千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>機械及び装置</td> <td>118,896</td> <td>91,134</td> <td>27,761</td> </tr> <tr> <td>車両運搬具</td> <td>9,174</td> <td>6,956</td> <td>2,217</td> </tr> <tr> <td>工具、器具及び備品</td> <td>12,169</td> <td>10,637</td> <td>1,531</td> </tr> <tr> <td>ソフトウェア</td> <td>32,132</td> <td>23,580</td> <td>8,552</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>172,371</td> <td>132,308</td> <td>40,063</td> </tr> </tbody> </table>		取得価額相当額 (千円)	減価償却累計額相当額 (千円)	期末残高相当額 (千円)	機械及び装置	118,896	91,134	27,761	車両運搬具	9,174	6,956	2,217	工具、器具及び備品	12,169	10,637	1,531	ソフトウェア	32,132	23,580	8,552	合計	172,371	132,308	40,063
	取得価額相当額 (千円)	減価償却累計額相当額 (千円)	期末残高相当額 (千円)																																														
機械及び装置	145,586	95,613	49,972																																														
車両運搬具	9,174	5,121	4,052																																														
工具、器具及び備品	12,169	8,398	3,770																																														
ソフトウェア	32,132	17,153	14,978																																														
合計	199,061	126,287	72,774																																														
	取得価額相当額 (千円)	減価償却累計額相当額 (千円)	期末残高相当額 (千円)																																														
機械及び装置	118,896	91,134	27,761																																														
車両運搬具	9,174	6,956	2,217																																														
工具、器具及び備品	12,169	10,637	1,531																																														
ソフトウェア	32,132	23,580	8,552																																														
合計	172,371	132,308	40,063																																														
(2) 未経過リース料期末残高相当額 <table style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 80%;">1年内</td> <td style="text-align: right;">32,971千円</td> </tr> <tr> <td>1年超</td> <td style="text-align: right;">42,364</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td style="text-align: right;">75,335</td> </tr> </table>	1年内	32,971千円	1年超	42,364	合計	75,335	(2) 未経過リース料期末残高相当額 <table style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 80%;">1年内</td> <td style="text-align: right;">24,710千円</td> </tr> <tr> <td>1年超</td> <td style="text-align: right;">16,728</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td style="text-align: right;">41,439</td> </tr> </table>	1年内	24,710千円	1年超	16,728	合計	41,439																																				
1年内	32,971千円																																																
1年超	42,364																																																
合計	75,335																																																
1年内	24,710千円																																																
1年超	16,728																																																
合計	41,439																																																
(3) 支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額 <table style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 80%;">支払リース料</td> <td style="text-align: right;">35,957千円</td> </tr> <tr> <td>減価償却費相当額</td> <td style="text-align: right;">33,039</td> </tr> <tr> <td>支払利息相当額</td> <td style="text-align: right;">2,620</td> </tr> </table>	支払リース料	35,957千円	減価償却費相当額	33,039	支払利息相当額	2,620	(3) 支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額 <table style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 80%;">支払リース料</td> <td style="text-align: right;">34,415千円</td> </tr> <tr> <td>減価償却費相当額</td> <td style="text-align: right;">31,617</td> </tr> <tr> <td>支払利息相当額</td> <td style="text-align: right;">1,653</td> </tr> </table>	支払リース料	34,415千円	減価償却費相当額	31,617	支払利息相当額	1,653																																				
支払リース料	35,957千円																																																
減価償却費相当額	33,039																																																
支払利息相当額	2,620																																																
支払リース料	34,415千円																																																
減価償却費相当額	31,617																																																
支払利息相当額	1,653																																																
(4) 減価償却費相当額の算定方法 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。	(4) 減価償却費相当額の算定方法 同左																																																
(5) 利息相当額の算定方法 リース料総額とリース物件の取得価額相当額との差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっております。	(5) 利息相当額の算定方法 同左																																																
(減損損失について) リース資産に配分された減損損失はありません。	(減損損失について) リース資産に配分された減損損失はありません。																																																

(有価証券関係)

前事業年度 (平成22年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式 (貸借対照表計上額 子会社株式471,503千円、関連会社株式14,900千円) は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

当事業年度 (平成23年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式 (貸借対照表計上額 子会社株式450,882千円、関連会社株式11,900千円) は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成22年3月31日)	当事業年度 (平成23年3月31日)
	(千円)	(千円)
繰延税金資産 (流動)		
賞与引当金	58,570	167,910
未払事業税	3,361	14,215
未払社会保険料	7,796	25,858
貸倒引当金	585	113
受注損失引当金	54,548	150,644
たな卸資産評価損	127,810	140,437
未払金	—	24,403
未払費用	202,418	94,328
製品補修損失	1,735	—
販売手数料	—	29,360
その他	10,865	14,357
小計	467,691	661,630
評価性引当額	△284,160	△114,652
繰延税金資産 (流動) 合計	183,531	546,978
繰延税金負債 (流動)		
その他有価証券評価差額金	△433	—
繰延税金資産 (流動) の純額	183,097	546,978
繰延税金資産 (固定)		
退職給付引当金	166,898	151,784
役員退職慰労引当金	50,901	54,957
貸倒引当金	90,154	87,694
関係会社株式評価損	35,884	45,278
みなし配当金	30,859	30,859
減価償却費	32,962	33,837
減損損失	165,813	163,423
投資有価証券評価損	44,422	53,570
繰越欠損金	358,355	—
その他有価証券評価差額金	22,937	54,304
その他	5,478	16,169
小計	1,004,670	691,879
評価性引当額	△729,394	△449,389
繰延税金資産 (固定) 合計	275,276	242,489

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成22年3月31日)	当事業年度 (平成23年3月31日)
法定実効税率	39.7%	39.7%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	△2.0	2.8
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.7	△0.8
住民税均等割等	△1.5	1.6
外国税額	△1.8	0.1
法人税額の特別控除額	—	△3.9
評価性引当額の増減	△62.8	△70.6
その他	△0.0	0.5
税効果会計適用後の法人税等の負担率	<u>△27.7</u>	<u>△30.6</u>

(企業結合等関係)

前事業年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)

該当事項はありません。

当事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

当事業年度末 (平成23年3月31日)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
1株当たり純資産額 1,612円78銭 1株当たり当期純損失金額 56円05銭 なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、1株当たり当期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載していません。	1株当たり純資産額 1,659円42銭 1株当たり当期純利益金額 54円71銭 なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

(注) 1. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (平成22年3月31日)	当事業年度 (平成23年3月31日)
純資産の部の合計額(千円)	24,508,451	25,217,049
純資産の部の合計額から控除する金額 (千円)	—	—
普通株式に係る期末の純資産額(千円)	24,508,451	25,217,049
1株当たり純資産額の算定に用いられた期 末の普通株式の数(株)	15,196,380	15,196,340

(注) 2. 1株当たり当期純損益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日)	当事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)
当期純損益(千円)	△851,749	831,323
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る当期純損益(千円)	△851,749	831,323
期中平均株式数(株)	15,196,380	15,196,348

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

④【附属明細表】

【有価証券明細表】

【株式】

		銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)
投資有価証券	その他有価証券	株式会社八十二銀行	530,564	254,140
		キッセイ薬品工業株式会社	151,120	235,747
		コクヨ株式会社	88,222	56,109
		日本発条株式会社	58,306	48,044
		株式会社ヤマウラ	179,500	43,259
		株式会社みずほフィナンシャルグループ	200,000	27,600
		丸一鋼管株式会社	11,165	22,944
		株式会社ティービーエム	33,750	21,768
		日発販売株式会社	90,500	20,181
		株式会社住生活グループ	8,000	17,280
		その他18銘柄	185,850	46,416
		計	1,536,977	793,490

【債券】

		銘柄	券面総額 (千円)	貸借対照表計上額 (千円)
投資有価証券	その他有価証券	第27回変動利付国債 (15年)	500,000	494,250
		第26回変動利付国債 (15年)	300,000	298,050
		みずほ証券ユーロ円建CMSフローター債	250,000	239,750
		第304回利付国債 (10年)	200,000	204,361
		第121回利付国債 (20年)	200,000	195,554
		平成21年度第5回埼玉県公募公債	100,000	102,242
		第82回利付国債 (5年)	100,000	101,850
		第678回東京都公募公債	100,000	101,570
		第312回利付国債 (10年)	100,000	99,820
		第11回みずほ銀行期限前償還条項付劣後社債	60,000	60,468
		第4回地方公共団体金融機構債券	30,000	30,693
		第4回みずほコーポレート銀行期限前償還条項付劣後社債	30,000	30,333
		平成21年度第1回長野県公募公債	5,000	5,014
		計	1,975,000	1,963,955

【その他】

種類及び銘柄		投資口数等 (口)	貸借対照表計上額 (千円)	
有価証券	その他有価証券	野村MMF	37,288,693	37,288
		その他投資信託3銘柄	14,961,320	14,961
		小計	52,250,013	52,250
投資有価証券	満期保有目的の債券	みずほ証券 MIZUHO SECURITIES CBL S923 RG	2,500,000	250,000
		小計	2,500,000	250,000
	その他有価証券	公社債投資信託		
		野村アセットマネジメント株式会社第7回公社債投資信託	212,606,211	212,903
		野村アセットマネジメント株式会社第11回公社債投資信託	116,949,988	117,055
		野村アセットマネジメント株式会社第2回公社債投資信託	21,559,669	21,563
		野村アセットマネジメント株式会社第3回公社債投資信託	21,547,582	21,547
		野村アセットマネジメント株式会社第1回公社債投資信託	21,510,721	21,523
		野村アセットマネジメント株式会社第12回公社債投資信託	10,327,610	10,337
		株式投資信託		
		国際投信投資顧問株式会社：グローバル・ソブリン・オープン(毎月決算型)	100,000,000	53,900
		国際投信投資顧問株式会社：グローバル・ソブリン・オープン(3ヵ月決算型)	20,000,000	11,472
		小計	524,501,781	470,304
		計	579,251,794	772,554

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	前期末残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価 却累計額又は 償却累計額 (千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末残 高 (千円)
有形固定資産							
建物	4,646,665	43,478	16,017	4,674,126	3,493,787	103,286	1,180,338
構築物	487,187	17,729	14,102	490,813	412,930	11,363	77,883
機械及び装置	4,659,365	90,095	225,288	4,524,172	3,949,770	173,609	574,401
車両運搬具	36,714	4,430	690	40,453	33,830	3,460	6,623
工具、器具及び備品	3,111,029	114,291	258,668	2,966,653	2,796,800	124,383	169,853
土地	4,148,123	—	—	4,148,123	—	—	4,148,123
リース資産	24,837	30,772	—	55,610	13,598	7,520	42,011
建設仮勘定	33,933	51,932	33,933	51,932	—	—	51,932
有形固定資産計	17,147,857	352,730	548,701	16,951,886	10,700,718	423,622	6,251,167
無形固定資産							
借地権	9,814	—	—	9,814	—	—	9,814
意匠出願権	75,476	—	9,800	65,676	34,202	10,729	31,473
ソフトウェア	58,839	19,315	—	78,155	38,261	12,206	39,893
その他	20,835	11,428	300	31,964	9,380	2,060	22,583
無形固定資産計	164,965	30,744	10,100	185,610	81,844	24,996	103,765
長期前払費用	16,334	54	4,170	12,218	—	—	12,218
繰延資産							
—	—	—	—	—	—	—	—
繰延資産計	—	—	—	—	—	—	—

(注) 工具、器具及び備品の当期取得のうち主なものは、製造用金型及び治具46,292千円であります。

【引当金明細表】

区分	前期末残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	229,902	338	763	7,092	222,385
賞与引当金	147,284	422,234	147,284	—	422,234
役員賞与引当金	—	4,000	—	—	4,000
受注損失引当金	147,383	378,818	147,383	—	378,818
役員退職慰労引当金	128,000	10,200	—	—	138,200

(注) 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」は、一般債権の貸倒実績率による洗替額715千円及び回収に伴う取崩額6,376千円であります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

① 流動資産

イ. 現金及び預金

区分	金額 (千円)
現金	526
預金	
普通預金	412,453
通知預金	650,000
定期預金	8,050,000
別段預金	3,376
その他	198,890
小計	9,314,721
合計	9,315,247

ロ. 受取手形

相手先別内訳

相手先	金額 (千円)
新川電機株式会社	62,894
株式会社堀場エステック	29,600
株式会社精器商会	28,174
明治電機工業株式会社	27,455
本多金属工業株式会社	23,257
その他	130,018
合計	301,399

期日別内訳

期日別	金額 (千円)
平成23年4月	55,972
5月	67,927
6月	100,549
7月	74,586
8月	2,364
合計	301,399

ハ. 売掛金
相手先別内訳

相手先	金額 (千円)
コクヨファニチャー株式会社	2,790,122
凸版印刷株式会社	1,277,144
パナソニック液晶ディスプレイ株式会社	1,128,409
富士フィルム株式会社	226,638
日本発条株式会社	162,004
その他	1,319,582
合計	6,903,902

売掛金の発生および回収並びに滞留状況

前期繰越高 (千円)	当期発生高 (千円)	当期回収高 (千円)	次期繰越高 (千円)	回収率 (%)	滞留期間 (日)
(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A) + (B)} \times 100$	$\frac{(A) + (D)}{2} \div \frac{(B)}{365}$
8,386,342	16,858,004	18,340,444	6,903,902	72.7	165.5

(注) 当期発生高には消費税等が含まれております。

ニ. 商品及び製品

品目	金額 (千円)
住生活関連機器	137,807
検査計測機器	133,342
産業機器	103,790
エクステリア	5,825
その他	49,315
合計	430,081

ホ. 仕掛品

品目	金額 (千円)
住生活関連機器	137,362
検査計測機器	3,042,643
産業機器	139,814
エクステリア	38,794
その他	26,779
合計	3,385,393

へ. 原材料及び貯蔵品

区分	金額 (千円)
原材料	
主要材料	222, 882
補助材料	14, 196
購入部品	422, 016
その他材料	10, 309
小計	669, 404
貯蔵品	
消耗工具器具備品	6, 632
生産設備用燃料	5, 146
工場常用品	427
暖房用燃料	1, 368
販促用貯蔵品	10, 842
研究用貯蔵品	725
小計	25, 143
合計	694, 547

② 流動負債

イ. 支払手形

相手先別内訳

相手先	金額 (千円)
株式会社マイダス	114, 462
株式会社エルセナ	67, 783
丸一鋼販株式会社	55, 957
株式会社土屋製作所	55, 604
高槻ダイカスト株式会社	53, 888
その他	1, 481, 722
合計	1, 829, 418

期日別内訳

期日別	金額 (千円)
平成23年 4 月	573, 482
5 月	627, 398
6 月	380, 150
7 月	248, 387
合計	1, 829, 418

ロ 買掛金

相手先	金額 (千円)
株式会社ニッコー	187,687
株式会社栃木ニコン	99,923
株式会社マイダス	87,836
佐藤金属株式会社	62,560
モリ工業株式会社	46,154
その他	1,203,292
合計	1,687,455

ハ 前受金

相手先	金額 (千円)
LGジャパン(株)	585,217
Au Optronics Corp	370,800
Hannstar Display Corp	258,331
Chimei Innoux Corporation	243,301
PROTECH CORPORATION	167,490
その他	161,990
合計	1,787,130

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	_____
買取手数料	無料
公告掲載方法	当社の公告方法は電子公告とする。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。 公告掲載URL http://www.takano-net.co.jp/ir/index.html
株主に対する特典	毎年9月30日現在において所有株式数1,000株以上の株主に対し、長野県にちなんだ特産品を、所有株式数100株以上1,000株未満の株主に対し、当社オリジナルの品を年1回贈呈しております。

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、会社法第166条第1項の規定による請求をする権利、株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利以外の権利を有しておりません。

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間において、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度（第57期）（自平成21年4月1日 至平成22年3月31日）平成22年6月29日関東財務局長に提出

(2) 有価証券報告書の訂正報告書及び確認書

平成22年6月30日関東財務局長に提出

事業年度（第57期）（自平成21年4月1日 至平成22年3月31日）の有価証券報告書に係る訂正報告書であります。

(3) 内部統制報告書及びその添付書類

平成22年6月29日関東財務局長に提出

(4) 四半期報告書及び確認書

（第58期第1四半期）（自平成22年4月1日 至平成22年6月30日）平成22年8月10日関東財務局長に提出

（第58期第2四半期）（自平成22年7月1日 至平成22年9月30日）平成22年11月10日関東財務局長に提出

（第58期第3四半期）（自平成22年10月1日 至平成22年12月31日）平成23年2月10日関東財務局長に提出

(5) 臨時報告書

平成22年7月2日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）に基づく臨時報告書であります。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成22年 6月15日

タカノ株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	五十幡 理一郎 印
--------------------	-------	-----------

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	小 松 聡 印
--------------------	-------	---------

＜財務諸表監査＞

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているタカノ株式会社の平成21年4月1日から平成22年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書及び連結附属明細表について監査を行った。この連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、タカノ株式会社及び連結子会社の平成22年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

＜内部統制監査＞

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、タカノ株式会社の平成22年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。財務報告に係る内部統制を整備及び運用並びに内部統制報告書を作成する責任は、経営者にあり、当監査法人の責任は、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。また、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。内部統制監査は、試査を基礎として行われ、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果についての、経営者が行った記載を含め全体としての内部統制報告書の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、内部統制監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、タカノ株式会社が平成22年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成23年 6月16日

タカノ株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 福井 利幸 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 小松 聡 印

<財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているタカノ株式会社の平成22年4月1日から平成23年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書及び連結附属明細表について監査を行った。この連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、タカノ株式会社及び連結子会社の平成23年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

追記情報

「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更」に記載のとおり、会社はこれまで検査計測装置の収益の計上基準を国内売上高については客先搬入基準、海外輸出売上高については船積基準としていたが、当連結会計年度より検収基準に変更した。

<内部統制監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、タカノ株式会社の平成23年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。財務報告に係る内部統制を整備及び運用並びに内部統制報告書を作成する責任は、経営者にあり、当監査法人の責任は、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。また、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。内部統制監査は、試査を基礎として行われ、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果についての、経営者が行った記載を含め全体としての内部統制報告書の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、内部統制監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、タカノ株式会社が平成23年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成22年 6月15日

タカノ株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	五十幡 理一郎	印
--------------------	-------	---------	---

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	小 松 聡	印
--------------------	-------	-------	---

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているタカノ株式会社の平成21年4月1日から平成22年3月31日までの第57期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者であり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、タカノ株式会社の平成22年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成23年6月16日

タカノ株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 福井利幸 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 小松聡 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているタカノ株式会社の平成22年4月1日から平成23年3月31日までの第58期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び附属明細表について監査を行った。この財務諸表の作成責任は経営者であり、当監査法人の責任は独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、タカノ株式会社の平成23年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

追記情報

「会計処理方法の変更」に記載のとおり、会社はこれまで検査計測装置の収益の計上基準を国内売上高については客先搬入基準、海外輸出売上高については船積基準としていたが、当事業年度より、検収基準に変更した。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

【表紙】

【提出書類】	内部統制報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の4第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成23年6月29日
【会社名】	タカノ株式会社
【英訳名】	TAKANO CO., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 鷹野 準
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	長野県上伊那郡宮田村137番地
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【財務報告に係る内部統制の基本的枠組みに関する事項】

代表取締役社長鷹野準は、当社の財務報告に係る内部統制の整備及び運用に責任を有しており、企業会計審議会の公表した「財務報告に係る内部統制の評価及び監査の基準並びに財務報告に係る内部統制の評価及び監査に関する実施基準の設定について（意見書）」に示されている内部統制の基本的枠組みに準拠して財務報告に係る内部統制を整備及び運用しております。

なお、内部統制は、内部統制の各基本的要素が有機的に結びつき、一体となって機能することで、その目的を合理的な範囲で達成しようとするものであります。このため、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性があります。

2 【評価の範囲、基準日及び評価手続に関する事項】

財務報告に係る内部統制の評価は、当事業年度の末日である平成23年3月31日を基準日とし、一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、実施いたしました。

本評価においては、連結ベースの財務報告全体に重要な影響を及ぼす内部統制（全社的な内部統制）の評価を行ったうえで、その結果を踏まえて、評価対象とする業務プロセスを選定しております。当該業務プロセスの評価においては、選定された業務プロセスを分析したうえで、財務報告の信頼性に重要な影響を及ぼす統制上の要点を識別し、当該統制上の要点について整備及び運用状況を評価することによって、内部統制の有効性に関する評価を行いました。

財務報告に係る内部統制の評価の範囲は、会社及び連結子会社について、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性の観点から必要な範囲を決定いたしました。財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性は、金額的及び質的影響の重要性を考慮して決定しており、会社及び連結子会社1社を対象として行った全社的な内部統制の評価結果を踏まえ、業務プロセスに係る内部統制の評価範囲を合理的に決定いたしました。なお、連結子会社4社については、金額的及び質的重要性の観点から僅少であると判断し、全社的な内部統制の評価範囲に含めておりません。

業務プロセスに係る内部統制の評価範囲については、各事業拠点の前連結会計年度の売上高（連結会社間取引消去後）の金額が高い拠点から合算していき、前連結会計年度の連結売上高の概ね2/3に達している2事業拠点を「重要な事業拠点」といたしました。選定した重要な事業拠点においては、企業の事業目的に大きく関わる勘定科目として売上高、売掛金、棚卸資産に至る業務プロセスを評価の対象といたしました。

さらに、選定した重要な事業拠点にかかわらず、それ以外の事業拠点をも含めた範囲について、重要な虚偽記載の発生可能性が高く、見積りや予測をともなう重要な勘定科目に係る業務プロセスやリスクが大きい取引を行っている事業又は業務に係る業務プロセスを財務報告への影響を勘案して重要性の大きい業務プロセスとして評価対象に追加しております。

3 【評価結果に関する事項】

上記の評価の結果、平成23年3月31日現在の当社の財務報告に係る内部統制は有効であると判断いたしました。

4 【付記事項】

付記すべき事項はありません。

5 【特記事項】

特記すべき事項はありません。

【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の2第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成23年6月29日
【会社名】	タカノ株式会社
【英訳名】	TAKANO CO., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 鷹野 準
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	長野県上伊那郡宮田村137番地
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【有価証券報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長鷹野準は、当社の第58期（自平成22年4月1日 至平成23年3月31日）の有価証券報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認しました。

2 【特記事項】

特記すべき事項はありません。